

第2章

こども・子育てを取り巻く現状



第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

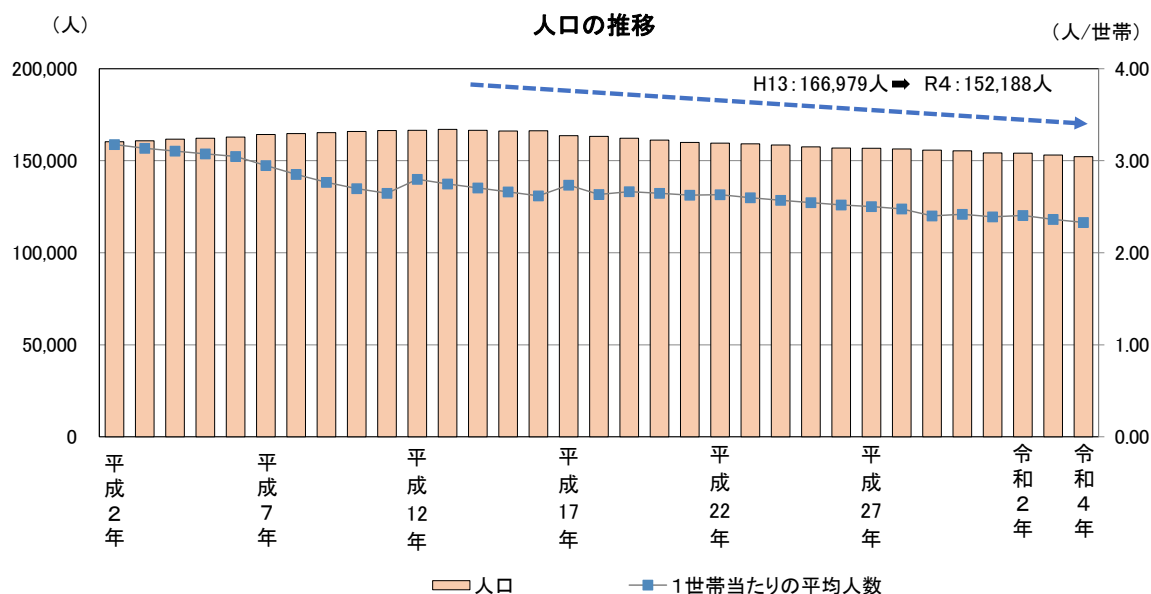
資料編

1 統計からみた本市の現状

(1) 人口と世帯数等の推移

① 人口の推移

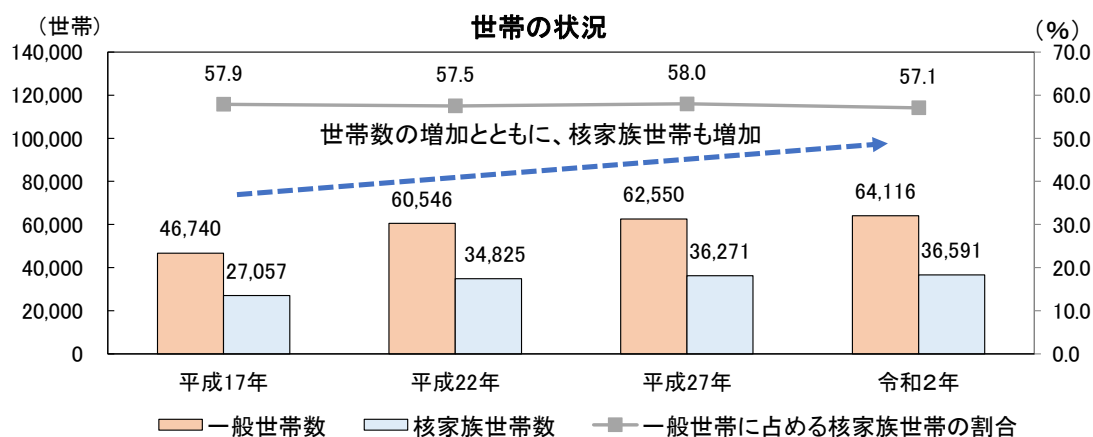
上田市の人口と世帯数は、令和4年で人口 152,188 人、世帯数 65,348 世帯となっています。人口は平成 13 年の 166,979 人をピークに減少しており、1 世帯当たりの平均人数は、減少傾向にあります。



資料：国勢調査、上田市の統計（各年 10 月 1 日現在）

② 一般世帯・核家族世帯の状況

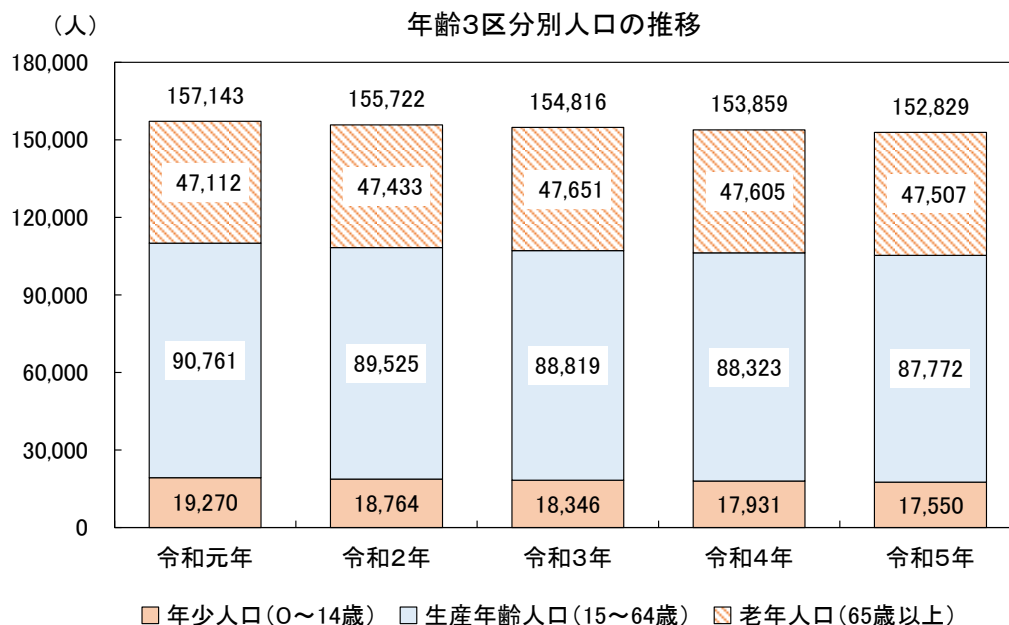
上田市の一般世帯及び核家族世帯数は年々増加しており、令和2年で一般世帯 64,116 世帯、核家族世帯 36,591 世帯となっています。また、一般世帯に占める核家族世帯の割合はほぼ横ばいとなっています。



資料：国勢調査

(2) 年齢3区分人口及び年少人口割合の推移

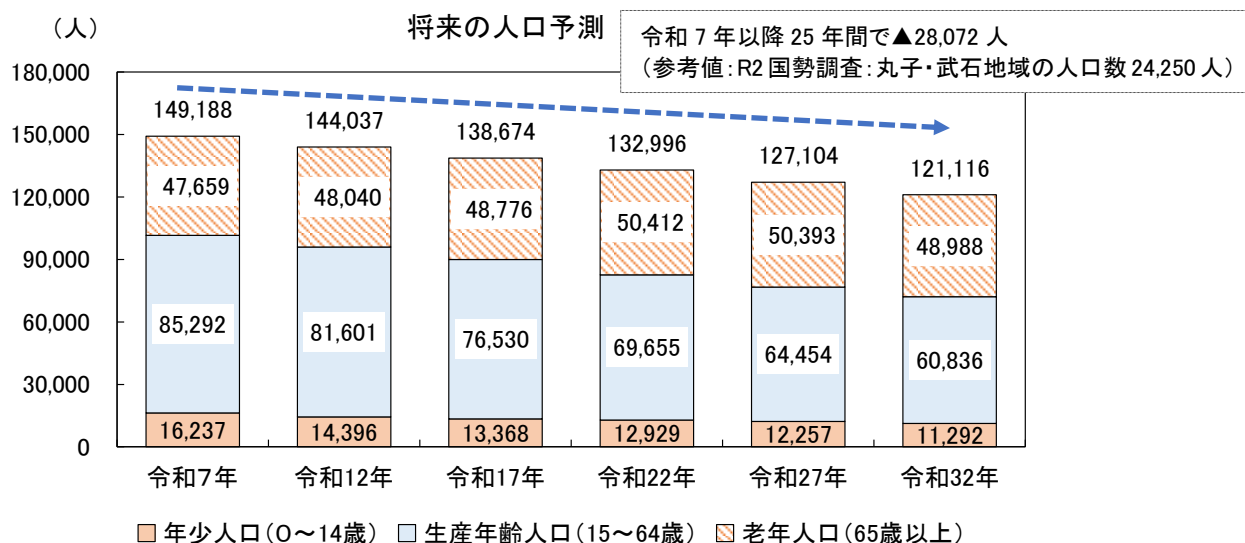
上田市の人口推移をみると、総人口は年々減少し、令和5年で152,829人となっています。また、年齢3区分別人口構成の推移をみると、年少人口（0～14歳）は減少しているのに対し、老年人口（65歳以上）はほぼ横ばいで推移しており、少子高齢化が進んでいます。



資料：住民基本台帳（各年10月1日現在）

(3) 将来の人口予測

上田市の将来の人口予測をみると、年少人口及び生産年齢人口は減少傾向にあります。老年人口は増加傾向にあります。今後も、少子高齢化が進行していくことが見込まれます。

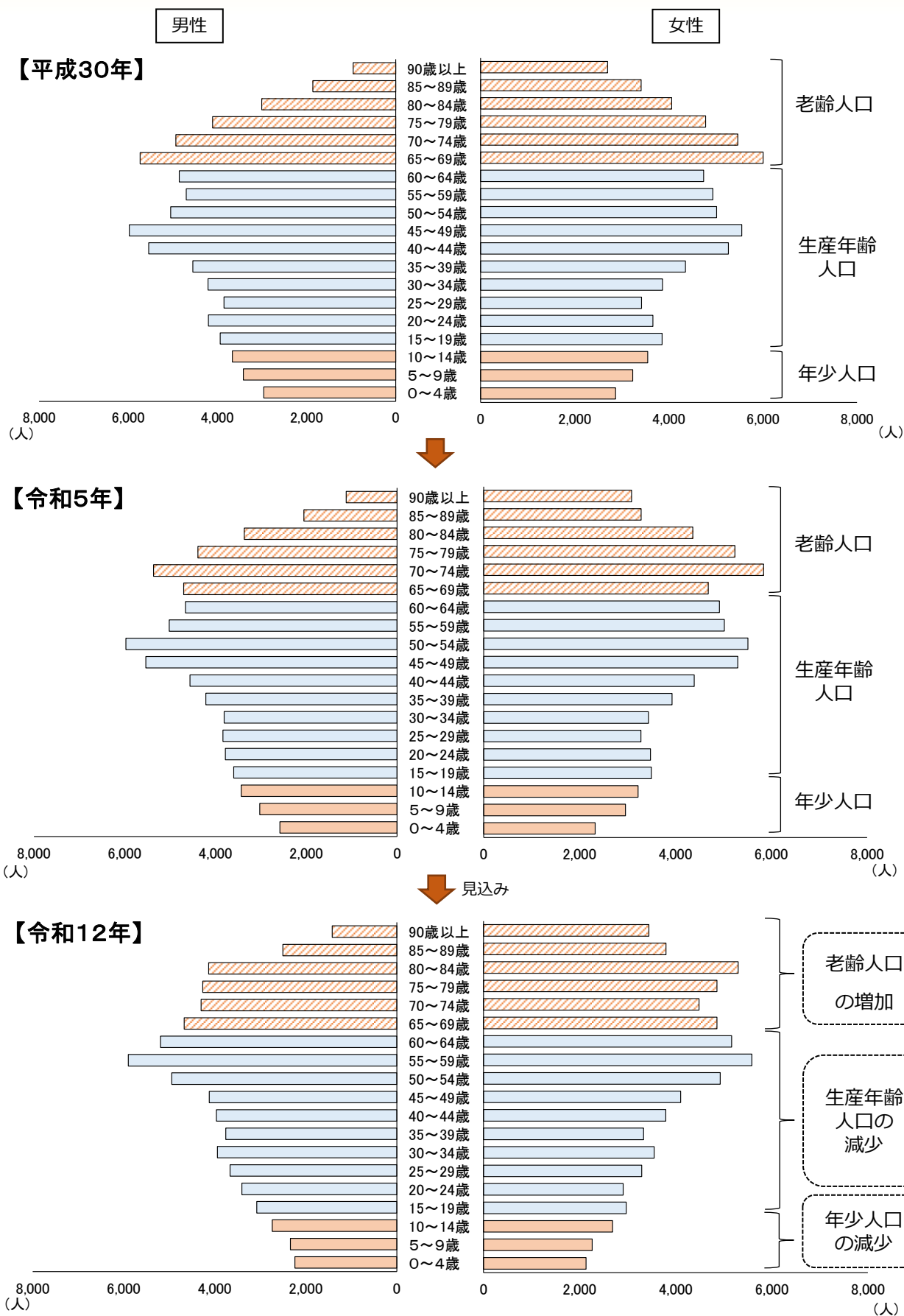


資料：国立社会保障・人口問題研究所



(4) 年齢別人口の推移

【人口ピラミッド】



資料：平成30年、令和5年は住民基本台帳、令和12年は国立社会保障・人口問題研究所



(5) 自然動態・社会動態

上田市の自然動態は、出生数を死亡数が上回っています。また、年々その差は大きくなっています。なお、社会動態は、転入が転出を上回っています。

自然動態							単位: 人
区 分	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
出生数	1,123	1,096	1,127	1,016	999	964	958
死亡数	1,782	1,946	1,912	1,953	1,896	1,891	2,084
増減	-659	-850	-785	-937	-897	-927	-1,126

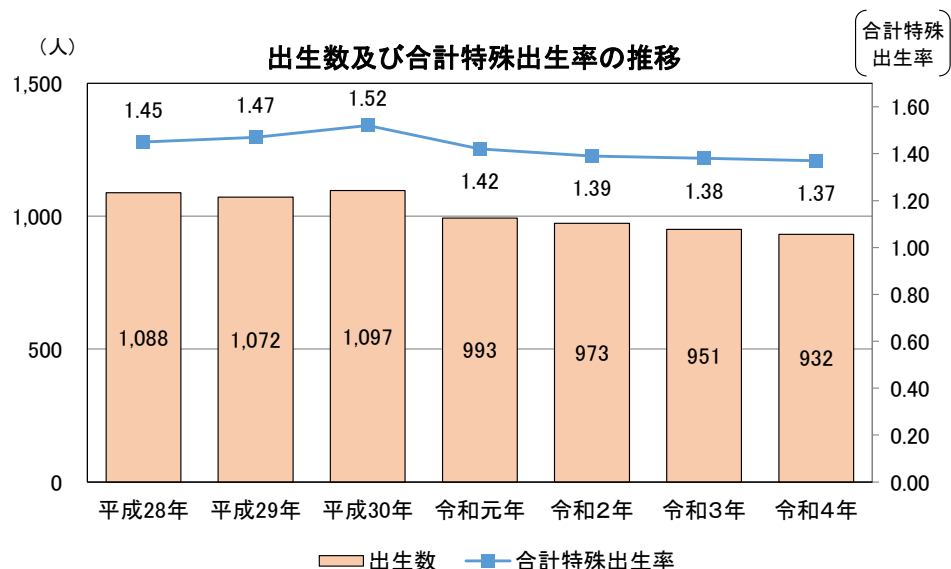
社会動態								単位:人
区 分		平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
転入	総数	4,892	4,901	5,296	4,823	4,367	4,486	4,854
	県外	2,657	2,762	3,023	2,692	2,234	2,401	2,799
	県内	2,235	2,139	2,273	2,131	2,133	2,085	2,055
転出	総数	4,350	4,487	4,697	4,891	4,509	4,376	4,696
	県外	2,456	2,415	2,556	2,788	2,463	2,370	2,646
	県内	1,894	2,072	2,141	2,103	2,046	2,006	2,050
増減		542	414	599	-68	-142	110	158

資料：上田市の統計

(6) 出生数と合計特殊出生率^(注)の状況

上田市の出生数は減少傾向にあり、令和4年で932人と平成28年と比較すると156人減少しています。

また、上田市の合計特殊出生率^(注)の推移をみると、平成30年から減少しており令和4年では1.37となっています。

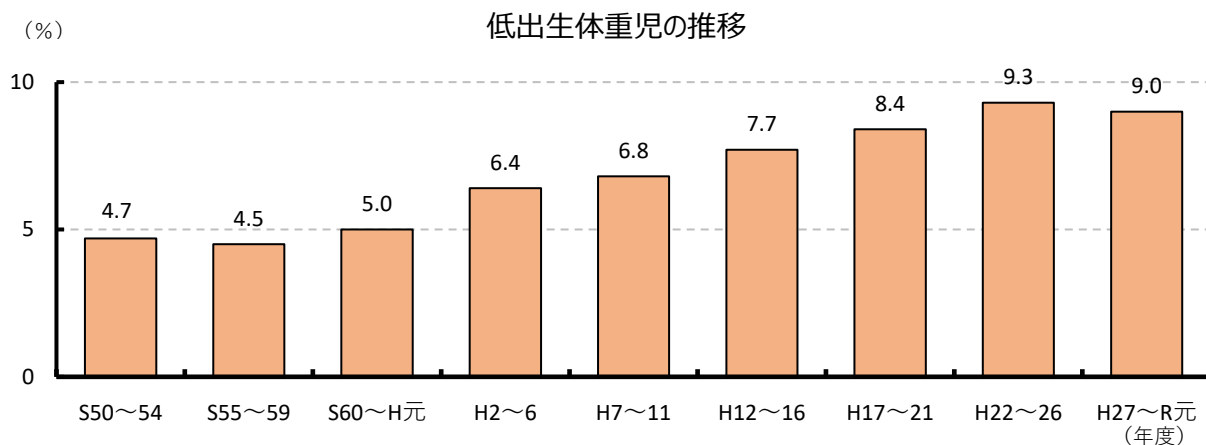


資料：健康推進課資料



(7) 低出生体重児の推移

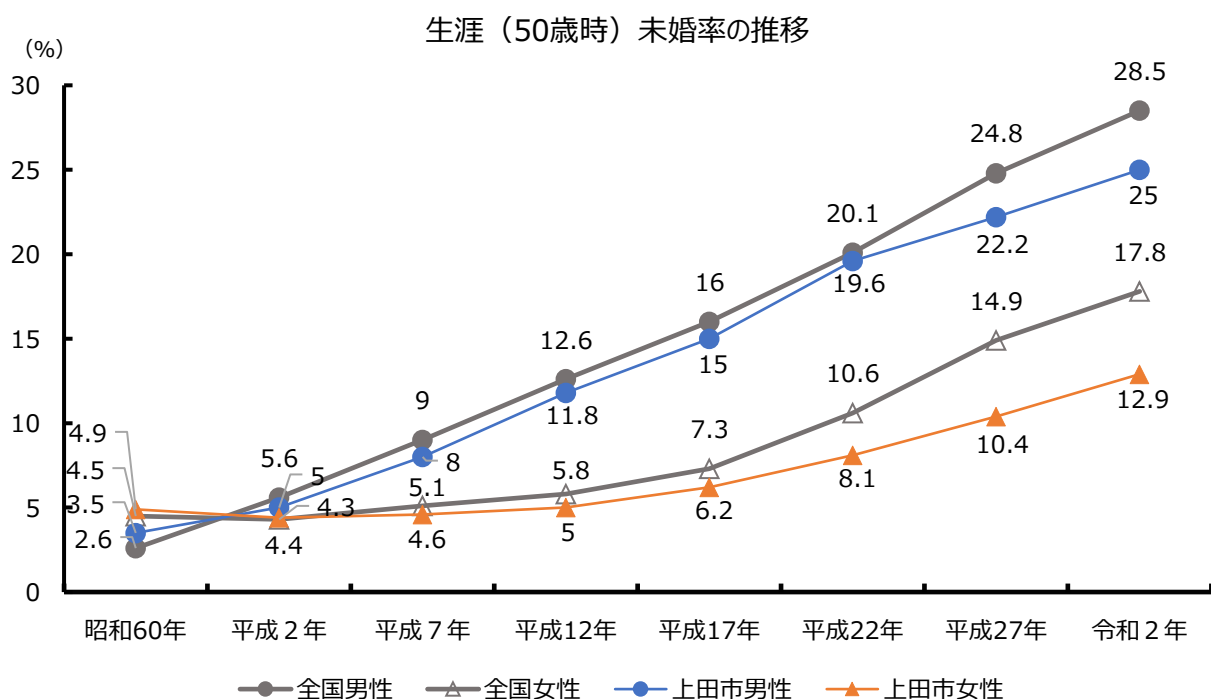
上田市の2,500g未満の低出生体重児の出生率は、昭和50年から昭和54年までの5年間の平均4.7%に比べ、平成27年から令和元年までの5年間の平均は9.0%と約2倍に増えています。



資料：長野県衛生年報

(8) 生涯（50歳時）未婚率の推移

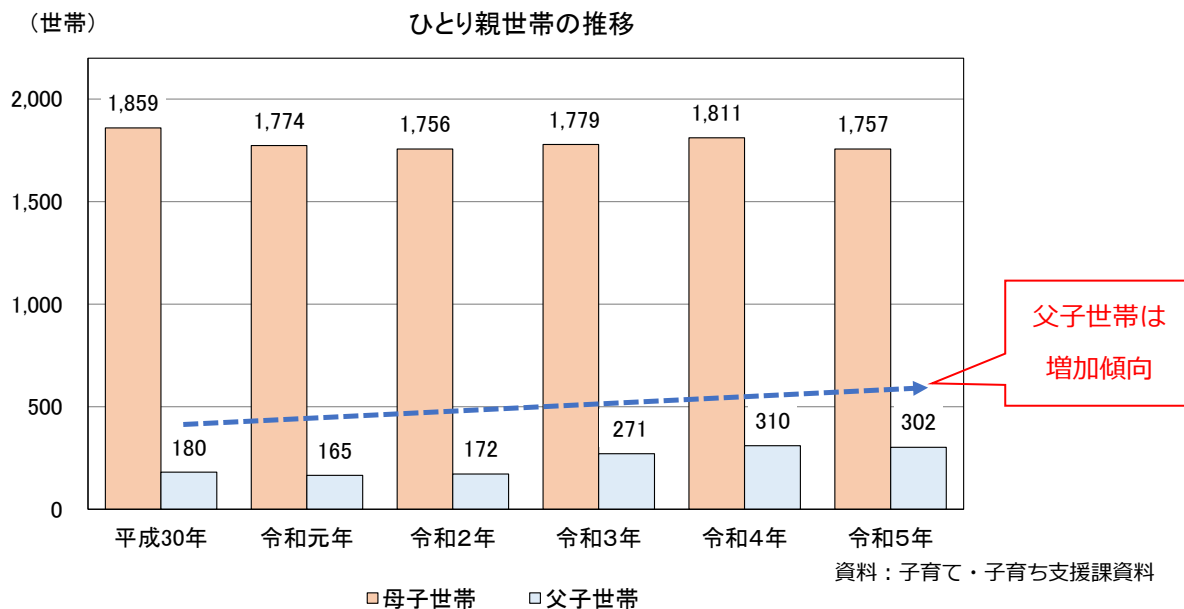
上田市の生涯（50歳時）未婚率の推移をみると、男女ともに増加しています。増加の理由として、雇用の不安定化やライフスタイルの多様化などがあげられ、少子化に大きく影響しています。



資料：国勢調査

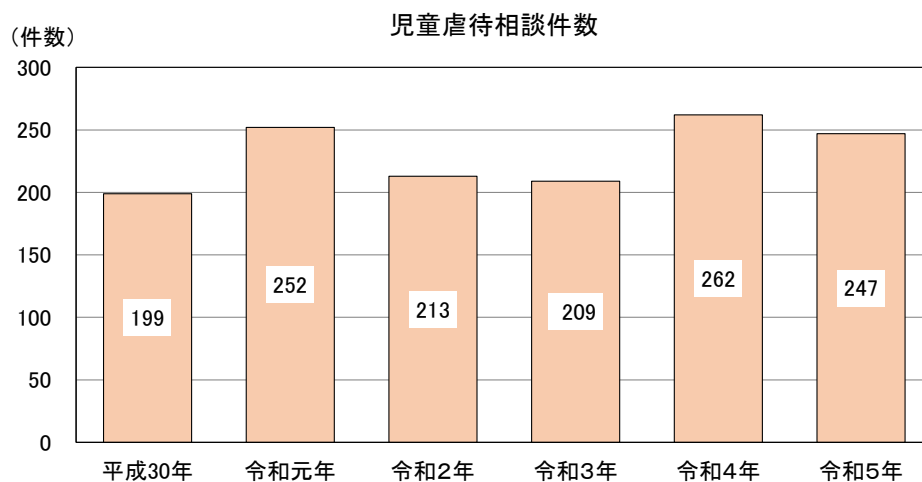
(9) ひとり親家庭数の状況

上田市の20歳未満のこどもがいる母子世帯は、一定の世帯数で推移し、令和5年で1,757世帯となっています。また、20歳未満のこどもがいる父子世帯は年々増加しています。



(10) 児童虐待相談の件数

上田市の児童虐待相談件数は各年で変動しており、増加と減少を繰り返しています。令和4年では262件と直近5年間で最も多くなっていましたが、令和5年は247件と減少しています。



資料：子育て・子育て支援課資料

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

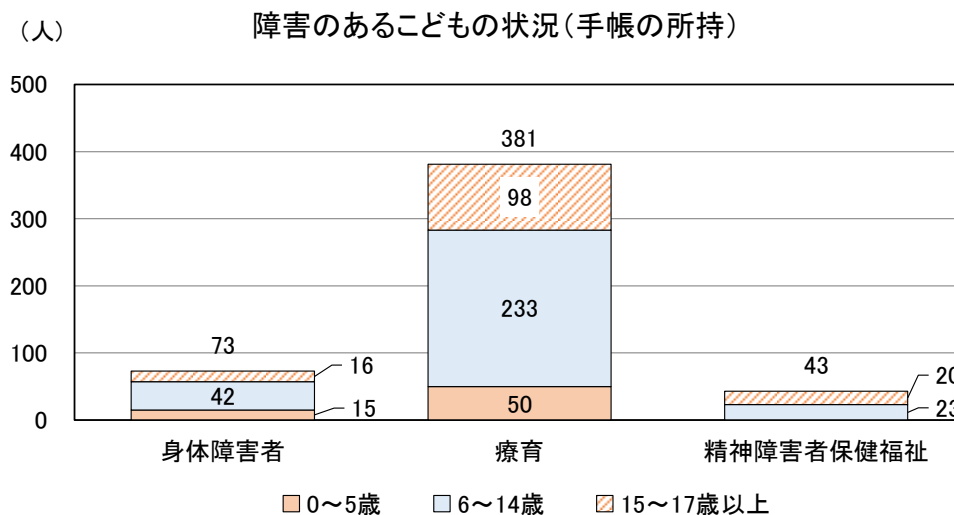
第6章

資料編



(11) 障がいのあるこどもの状況

上田市の障がいのあるこどもの現状は、療育手帳を持つこどもが最も多く 381 人となっています。



資料：障がい者支援課資料（令和 6 年 3 月 31 日現在）

(12) 児童・生徒数と特別支援学級・学校に在籍する児童・生徒数

上田市の児童・生徒数は年々減少していますが、特別支援学級・学校の児童・生徒数は年々増加傾向にあります。

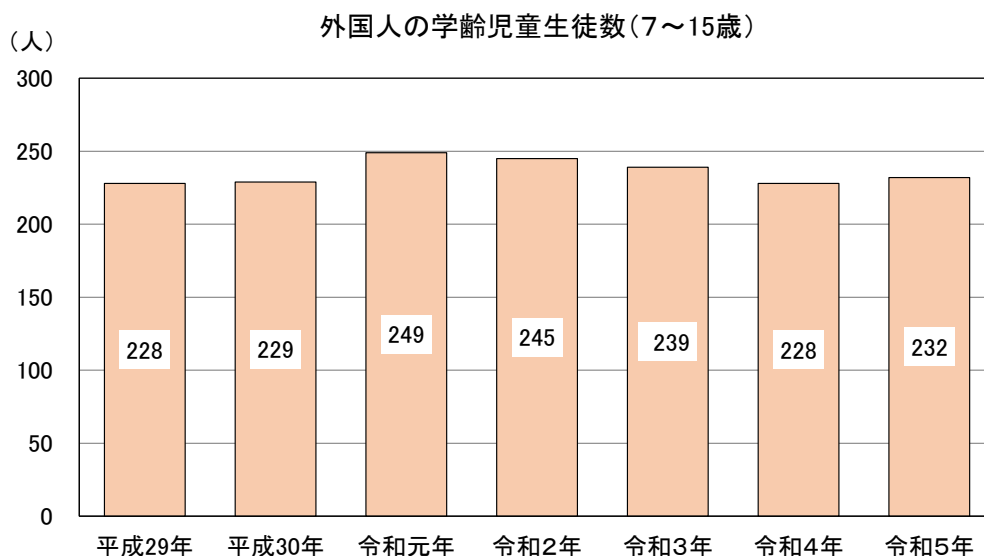
区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
児童数	8,098	8,007	7,848	7,734	7,694	7,488
生徒数	4,204	4,123	4,044	3,960	3,862	3,808
特別支援学級の児童数	331	356	369	378	408	418
特別支援学級の生徒数	194	198	199	205	197	228
特別支援学校の児童数	76	77	79	76	66	71
特別支援学校の生徒数	37	39	42	41	46	47

資料：学校教育課資料（各年 5 月 1 日現在）



(13) 外国につながるこどもの状況

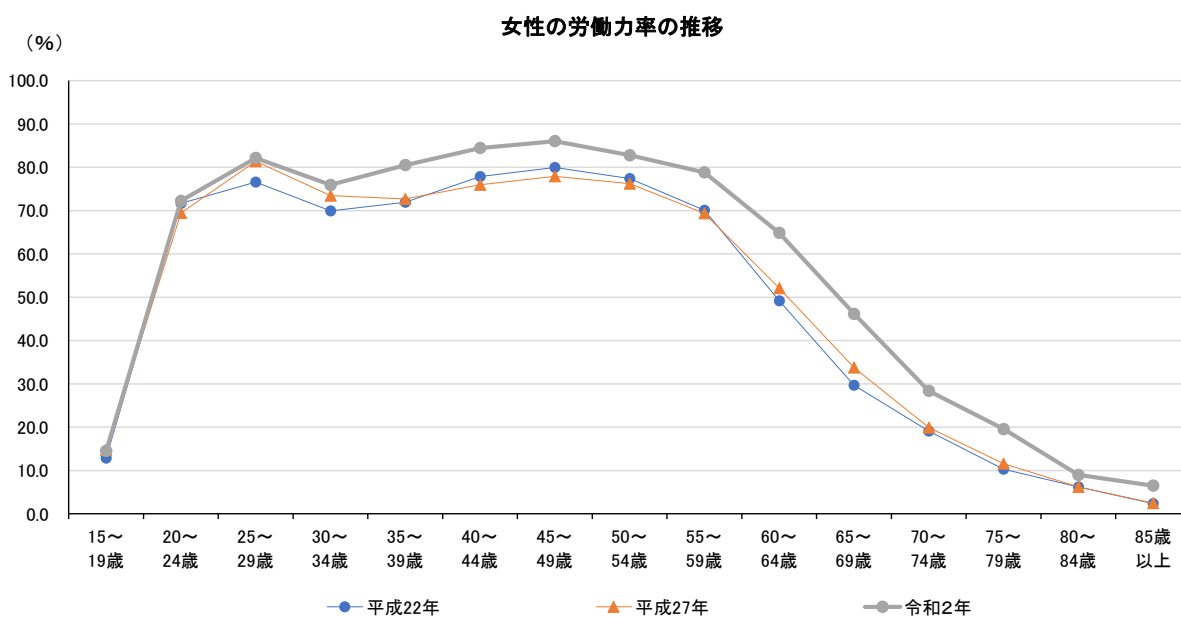
上田市の外国人の学齢児童生徒数は、令和元年までは増加していましたが、令和2年から減少傾向にあり、令和5年では232人となっています



資料：住民基本台帳（各年5月1日現在）

(14) 就業状況

上田市の女性の年齢別労働力率は、30～34歳の出産・育児期に落ち込み、再び増加するM字カーブを描いています。全体的な就業率は、平成22年及び平成27年と比較すると令和2年は増加しています。

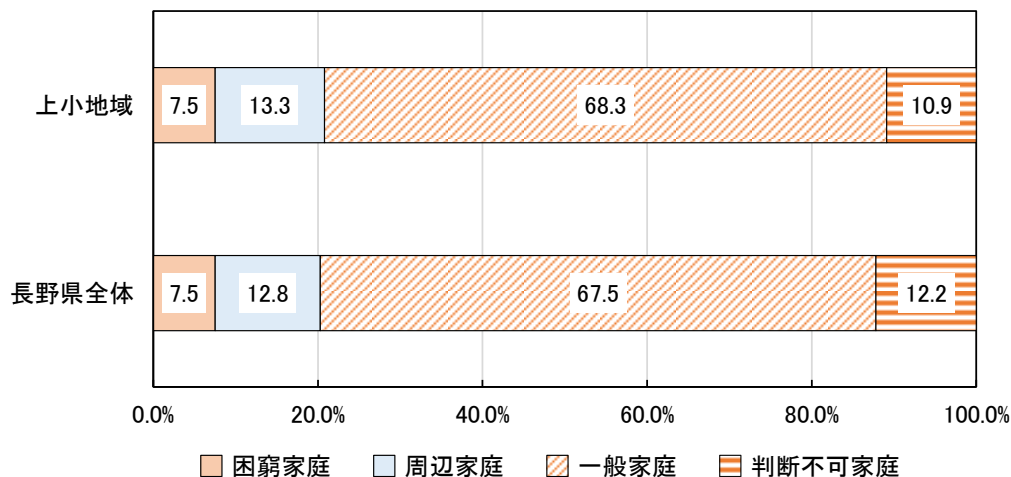


資料：国勢調査



(15) こどもの貧困の状況

上小地域における生活困難度は、「困窮家庭」が 7.5%、「周辺家庭」が 13.3%となっています。



資料：長野県子どもと子育て家庭の生活実態調査結果報告書（令和 5 年 2 月）

※ 長野県子どもと子育て家庭の生活実態調査結果の「生活困難度」の取扱いについて

以下①②③の 3 つの要素の回答状況に基づいて分類

① 低所得	世帯の可処分所得、世帯人数を組み合わせた分類のうち、一定の所得未満の世帯 例 1人世帯 120 万円未満、2人世帯 175 万円未満 3人世帯 210 万円未満、4人世帯 245 万円未満
② 家計のひっ迫	7 項目（電話・電気・ガス・水道の公共料金、家賃、食料・衣類の購入）について、経済的な理由で払えなかった、または買えなかったことが 1 つ以上ある場合
③ 子どもの体験や所有物の欠如	「海水浴に行く」、「遊園地やテーマパークに行く」、「毎月お小遣いを渡す」など 15 項目のうち、経済的な理由でしていない、金銭的な理由でない、など欠如する項目が 3 つ以上ある場合

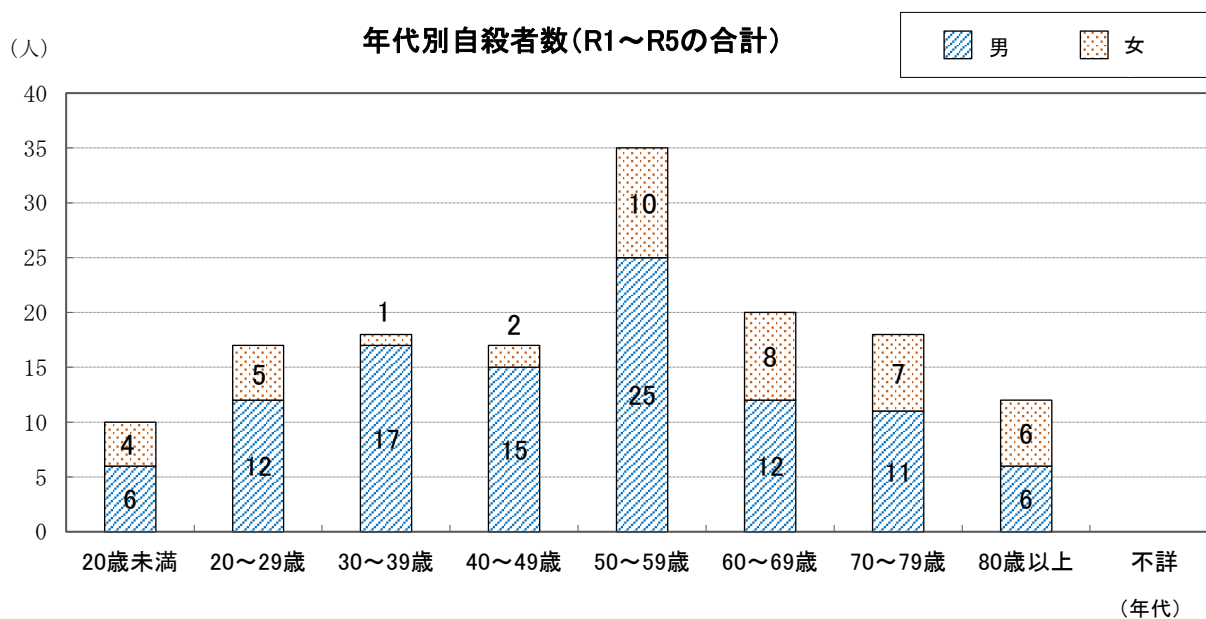


- ①②③ のうち 2 つ以上の要素に該当 = **困窮家庭**
- ①②③ のうち 1 つ以上の要素に該当 = **周辺家庭**
- ①②③ に該当しない = **一般家庭**



(16) 自殺者数の推移

上田市の令和元年から令和5年までの5年間の20歳未満の自殺者数は10人です。



資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

資料編



2 教育・保育施設の状況

(1) 保育所の利用状況

上田市の保育所の状況をみると、定員数・箇所数は横ばいとなっていますが、在籍児童数は減少傾向にあります。令和6年4月1日現在、32園、定員3,185人、在籍児童数2,455人となっています。

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
在籍児童数（人）	2,861	2,819	2,741	2,715
定員数（人）	3,255	3,245	3,245	3,245
施設数（箇所）	34	33	33	33

資料：保育課資料（各年度3月31日現在）

(2) 幼稚園の利用状況

上田市の幼稚園の状況をみると、定員数・箇所数は横ばいとなっていますが、利用児童数は減少傾向にあります。令和6年5月1日現在、11園、定員1,680人、在籍児童数665人となっています。

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
在籍児童数（人）	1,015	942	876	837
定員数（人）	2,070	1,995	1,995	1,995
施設数（箇所）	13	12	12	12

資料：保育課資料（各年度5月1日現在）

(3) 認定こども園^(注)の利用状況

上田市の認定こども園^(注)の状況をみると、定員数・利用児童数・箇所数ともに横ばいから増加傾向にあります。令和6年4月1日現在、9園、定員1,003人、在籍児童数918人となっています。

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
在籍児童数（人）	912	967	948	933
定員数（人）	858	933	933	933
施設数（箇所）	7	8	8	8

資料：保育課資料（各年度3月31日現在）



（４）小規模保育事業所（注）等の利用状況

上田市の小規模保育事業所（注）等の状況をみると、定員数・利用児童数・箇所数ともに年々増加傾向にあります。令和６年４月１日時点で、４園、定員６９人、在籍児童数６０人となっています。

区分	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度
在籍児童数（人）	34	79	85	88
定員数（人）	31	69	69	88
施設数（箇所）	2	4	4	5

資料：保育課資料（各年度3月31日現在）

（５）認可外保育施設の利用状況（事業所内保育所（注）含む）

上田市の認可外保育施設の状況をみると、定員数・利用児童数・箇所数ともに横ばいにあります。

区分	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度
在籍児童数（人）	161	156	155	172
定員数（人）	230	230	320	320
施設数（箇所）	16	16	17	17

資料：保育課資料（各年度3月31日現在）



3 地域子ども・子育て支援の現状

(1) 利用者支援事業

子育て家庭や妊産婦が、教育・保育施設や地域子ども・子育て支援事業、保健・医療・福祉等の関係機関を円滑に利用できるように、平成 28 年度に「子育て世代包括支援センター^(注)」を設置し、身近な場所での相談や情報提供、助言等必要な支援を行うとともに、「上田市こども家庭センター^(注)」など関係機関との連絡調整、連携・協働の体制づくり等を行っています。

区分	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
施設数（箇所）	1	1	1	1

(2) 地域子育て支援拠点事業

地域子育て支援拠点事業は、地域の子育て中の親子の交流促進や育児相談等を実施し、子育ての孤立感、負担感の解消を図り、すべての子育て家庭を地域で支える取組です。引き続き子育て世帯の多様なニーズに対するきめ細かな支援を行っていきます。

区分	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
子育て支援センター	35,690	36,874	37,824	59,198
児童館・児童センター	9,369	8,536	8,888	11,469
丸子子育てサロン	3,147	2,492	3,006	3,763
計（延べ利用回数）	48,206	47,902	49,718	74,430

(3) 妊婦健康診査

妊婦の健康を保ち、安心して出産できるよう、妊婦健康診査に対する公費助成を行っており、一人当たり平均 11.4 回の利用回数となっています。

【助成内容】全妊婦 14 回 母子健康手帳交付時に、14 枚の基本健診票、4 種類（5 枚）の追加検査受診票、4 枚の超音波受診票を交付する。

区分	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
利用人数（人）	923	983	921	871
利用回数（回）	10,206	11,663	10,264	10,029



(4) 乳児家庭全戸訪問事業

生後4か月を迎えるまでの全世帯の乳児と保護者に対して、保健師または助産師が自宅を訪問し、乳児の発育状況の確認、保護者の健康・育児相談及び子育て支援に関する情報提供等を行っています。

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
訪問件数(件)	942	956	919	868

(5) 養育支援訪問事業

若年や妊婦健康診査未受診者、望まない妊娠等、支援が必要な妊産婦が増えており、妊娠期も含め、継続的な支援を特に必要とする家庭に対し、健康推進課及び子育て・子育て支援課においてその必要性を把握した上で、保健師や助産師等が、その居宅を訪問し、養育に関する指導、助言を行っています。その中でさらに具体的な支援が必要な家庭にはヘルパーによる家事育児訪問支援をおこなっています。(一人当たり28時間以内)

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
実家庭数(人)	330	490	485	511
延べ家庭数(回)	2,084	2,580	2,284	2,621
家事育児訪問支援家庭数(人)	7	10	9	0

(6) 子育て世帯訪問支援事業

家事・育児に対して不安・負担を抱えながら子育て等を行い、こどもの養育だけでなく保護者(妊産婦を含む)自身が支援を必要とする家庭、ヤングケアラー^(注)がいる家庭に対し、その居宅を訪問し、不安や悩みを傾聴するとともに家事・育児等の支援を行います。

区分	令和4年度	令和5年度
支援家庭数(人)	13	26
延べ家庭数(回)	186	411

※養育支援訪問事業の家事育児訪問支援は、令和4年9月から本事業に移行。



(7) 子育て短期支援事業

保護者の疾病等により一時的に子育てに支障をきたす場合等に、児童を施設において預かることにより保護者の育児の負担軽減及び心身のリフレッシュを図ることを通じて、子育てを支援しています。

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
0～5 歳以下家庭 (延べ利用日数)	14	49	69	98
就学児家庭 (延べ利用日数)	36	34	18	58

(8) ファミリー・サポート・センター事業

子育て中の人、仕事や急な用事などでこどもの世話ができない時に、地域の人が応援する会員同士の相互援助活動です。子育ての応援をしてほしい人（依頼会員）に、子育ての応援をしたい人（提供会員）をセンター事務局が紹介し、依頼会員が提供会員へこどもの世話を依頼し、活動終了後に一定の料金を支払う仕組みです。

女性の就業率の向上に伴い、利用者は増加傾向にありますが、依頼会員に比べ提供会員の数が少なく、会員確保が課題となっています。また、送迎の要望も近年多くなっています。

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
活動回数（回）	1,744	1,508	1,801	1,431
実利用者数（人）	47	62	75	67
依頼会員（人）	435	447	425	418
提供会員数（人）	285	286	283	289
両方会員数（人）	54	55	48	62



(9) 一時預かり事業

ア 幼稚園での一時預かり事業（幼稚園型）

幼稚園や認定こども園^(注)（1号認定[※]）の在園児を対象とした一時預かり事業については、延べ利用人数は増加傾向にあります。

イ その他の一時預かり事業（幼稚園型以外）

その他の一時預かり事業（幼稚園型以外）は、保育所、幼稚園等の就学前施設を普段利用していないこどもを一時的に保育所・認定こども園^(注)で預かる事業です。就労または学習等による継続的な理由や、冠婚葬祭等による緊急的な理由のほか、近年は、育児に対する心理的・肉体的負担の軽減を必要とするニーズが高まっています。

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
幼稚園での一時預かり事業（延べ人数）	40,991	34,466	38,902	40,631
その他の一時預かり事業（延べ人数）	5,905	5,843	5,107	5,698

(10) 時間外保育事業（延長保育・休日保育）

通常の開所時間を越えて、さらに延長して保育を行う延長保育事業は、利用者が横ばいから増加傾向にあります。

また、日曜日や祝日にも保育を行う休日保育事業（公立1園で実施）は、年によって利用者が増減しています。

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
延長保育（延べ人数）	25,475	24,041	22,782	28,523
休日保育（延べ人数）	602	576	336	392



(11) 病児・病後児保育事業

児童が病気などのため、入院治療は必要ないが、ほかの児童との集団生活が困難な時期に保育所等にかわって、その児童を一時的に預かる事業です。

上田病院と丸子中央病院へ委託し、病気の急性期や急な容態変化にも迅速な対応が可能な医療機関併設型で実施しています。

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
利用人数（延べ人数）	441	686	1,055	1,086
実利用者数（人）	99	151	193	224
登録者数（人）	1,154	1,205	1,220	1,297

(12) 妊婦等包括相談支援事業

妊娠届出時から妊婦や0歳～2歳（低年齢期）の子育て家庭に寄り添い、出産・育児等の見通しを立てるための面談や、継続的な情報発信を行うことを通じて、必要な支援に繋ぐ伴走型相談支援の充実を図る事業です。（令和4年度開始）

また、妊娠届出や出生届出を行った妊産婦に対する、経済的支援を一体的に実施しています。

区 分	令和4年度	令和5年度
妊娠届出数（人）	921	871
面談実施合計回数（回）	1,840	2,362

(13) 産後ケア事業

出産したお母さんと赤ちゃんがスムーズに新生活をスタートできるよう医療機関又は助産所等で、助産師や看護師等から、心身のケアや授乳指導・育児相談等を受けられる事業です。

区 分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
産婦数（人）	968	965	932	875
利用人数（延べ人数）	14	187	342	480



(14) 放課後児童対策事業

児童館・児童センターは、18歳未満の児童に健全な遊びの場を提供し、児童の健康を増進するために設置しています。また、学童保育所・児童クラブは、保護者が仕事等により昼間家庭にいない児童を対象に、学校の空き教室等において、放課後児童支援員により適切な遊び及び生活の場を提供しています。

新型コロナウイルス感染拡大を防止するため、利用を一時制限した影響があり、利用児童数の大幅な増加はありませんでしたが、児童数が減少傾向にあるなかで、核家族化の進行や夫婦共働き家庭の一般化等により放課後児童施設^(注)の利用希望児童数は緩やかな増加傾向にあります。

利用人数（平日・人）	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
児童館・児童センター	19	23	21	22
学童保育所	44	45	40	51
児童クラブ	35	41	39	42



4 ニーズ調査等の結果概要

(1) ニーズ調査の概要

本計画の策定に向け、本市の子育てに関する状況を把握し、課題や意向等を計画及び施策に反映していくために、アンケート調査を実施しました。

対象者	無作為抽出による上田市在住の0歳から小学生6年生までの保護者の方(2,000人)及び、中・高校生世代(1,000人)			
調査方法	配布方法：郵送 回収方法：郵送またはWEBによる回答			
調査期間	令和6年1月19日(金)～令和6年2月2日(金)			
回収状況	調査対象	配布数	有効回答数	有効回答率
	就学前児童の保護者	1,000通	406通	40.6%
	小学生児童の保護者	1,000通	427通	42.7%
	中・高校生の生徒等	1,000通	278通	27.8%

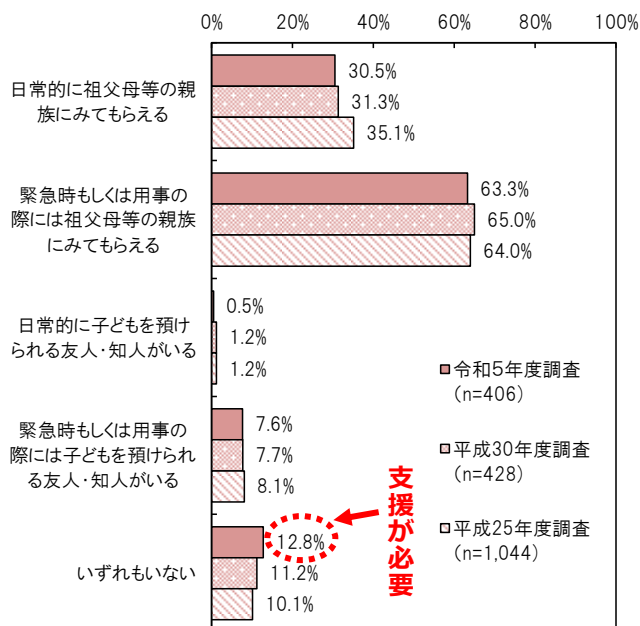
(2) ニーズ調査の主な設問と回答結果

ア 日ごろから子どもを預かってもらえる親族等の状況

① 日常的・緊急時にみてもらえる親族・知人の有無

「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」の割合が63.3%と最も高く、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」の割合が30.5%、「いずれもない」の割合が12.8%となっています。

過去の調査と比較すると、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」の割合が減少し、「いずれもない」と回答した支援が必要となる人の割合が増加しています。



※グラフや表に付された「n=●」(●は数字)は、回答者数を表しています

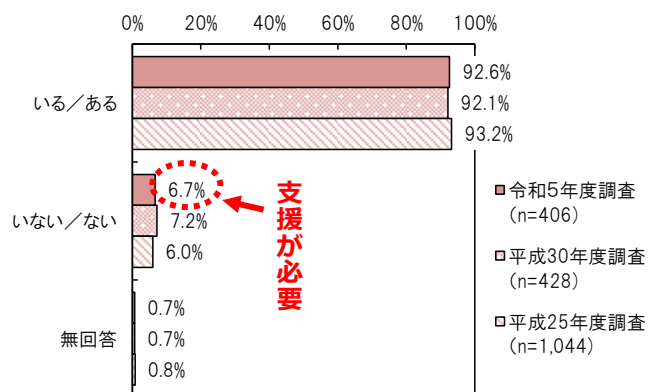


イ 配偶者以外に気軽に相談できる人の存在

① 就学前児童の保護者の気軽に相談できる人の有無

「いる／ある」の割合が 92.6%、「いない／ない」の割合が 6.7%となっています。

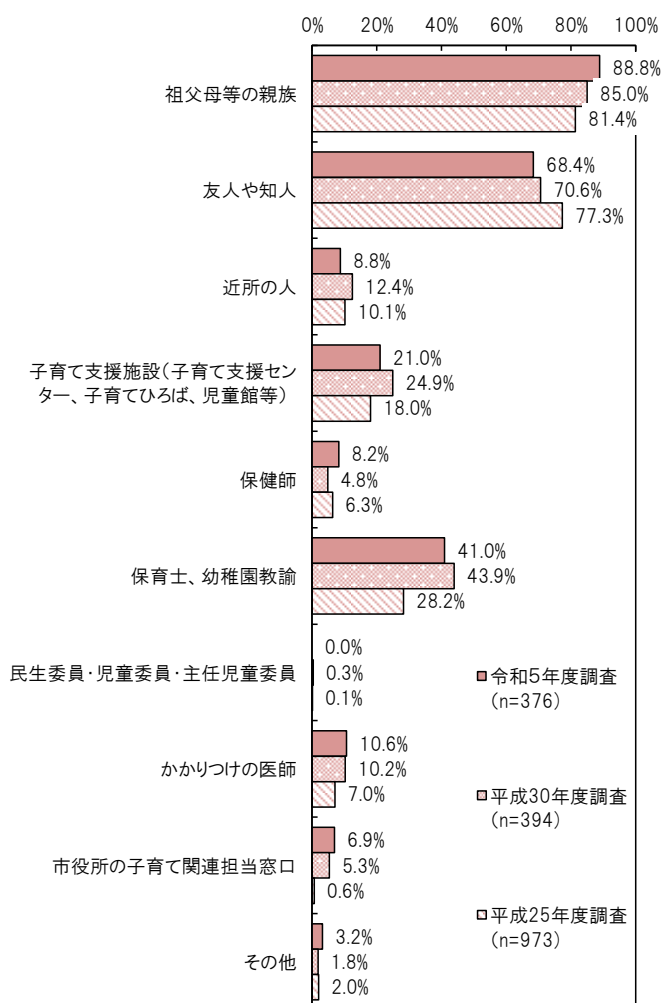
平成 30 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



② 就学前児童の保護者の気軽に相談できる相談先

「祖父母等の親族」の割合が 88.8%と最も高く、次いで「友人や知人」の割合が 68.4%、「保育士、幼稚園教諭」の割合が 41.0%となっています。

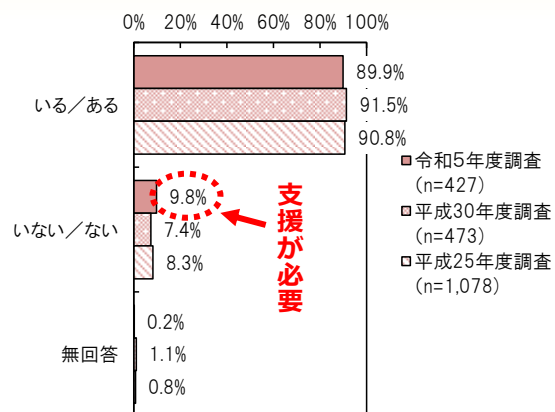
過去の調査と比較すると、「友人や知人」の割合が減少する一方、「祖父母等の親族」の割合が増加しています。



③ 小学生児童の保護者の気軽に相談できる人の有無

「いる／ある」の割合が 89.9%、「いない／ない」の割合が 9.8%となっています。

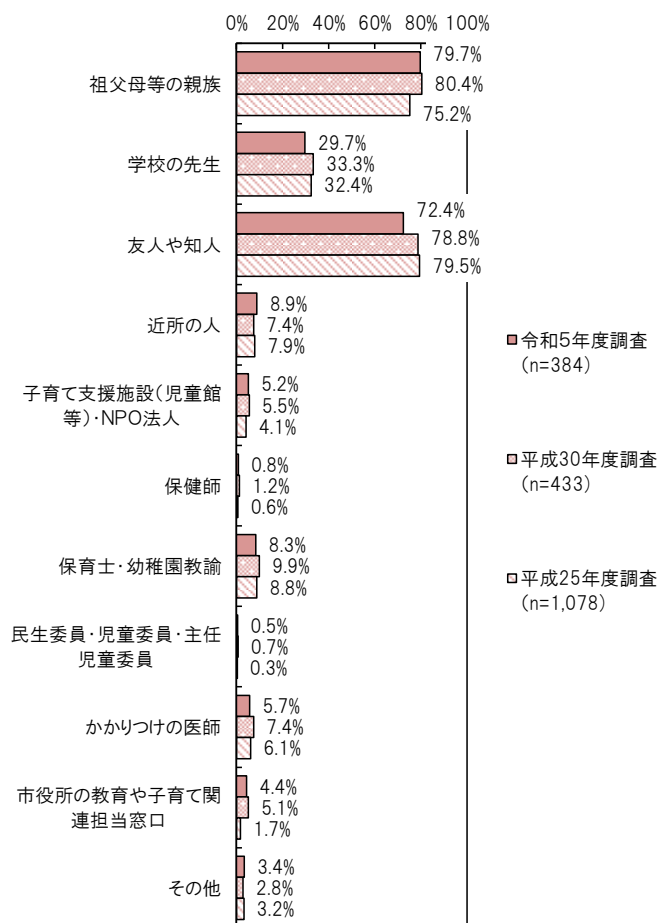
過去の調査と比較すると、大きな変化はみられません。



④ 小学生児童の保護者の気軽に相談できる相談先

「祖父母等の親族」の割合が 79.7%と最も高く、次いで「友人や知人」の割合が 72.4%となっています。

過去の調査と比べると、「友人や知人」の割合が減少しています。



ウ 日ごろの悩みや気になること

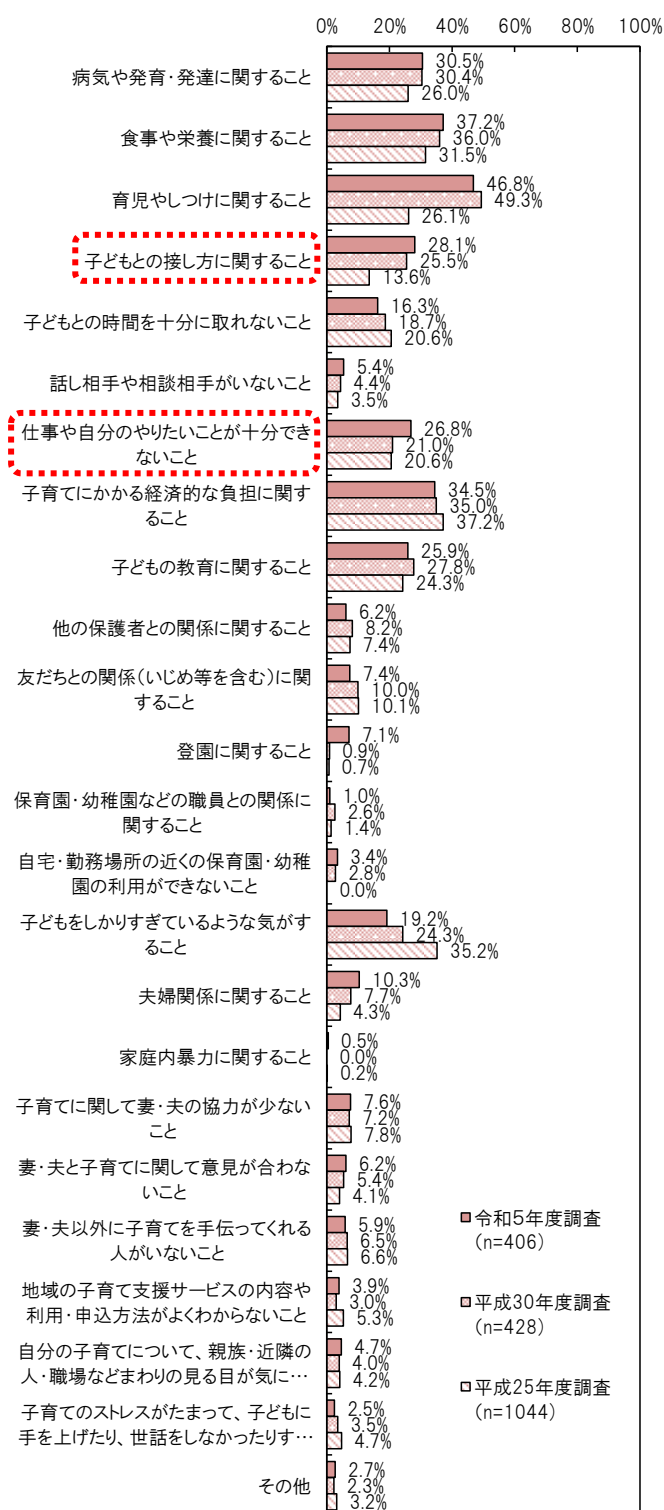
① 就学前児童の保護者の子育てに関して、日ごろ悩んでいることや気になること

「育児やしつけに関すること」の割合が46.8%と最も高く、次いで「食事や栄養に関すること」の割合が37.2%、「子育てにかかる経済的な負担に関すること」の割合が34.5%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「子どもとの接し方に関すること」「仕事や自分のやりたいことが十分できないこと」の割合が増加しています。

一方、「子どもをしかりすぎているような気がする」との割合が減少しています。

※ 前回調査より増加



第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

資料編



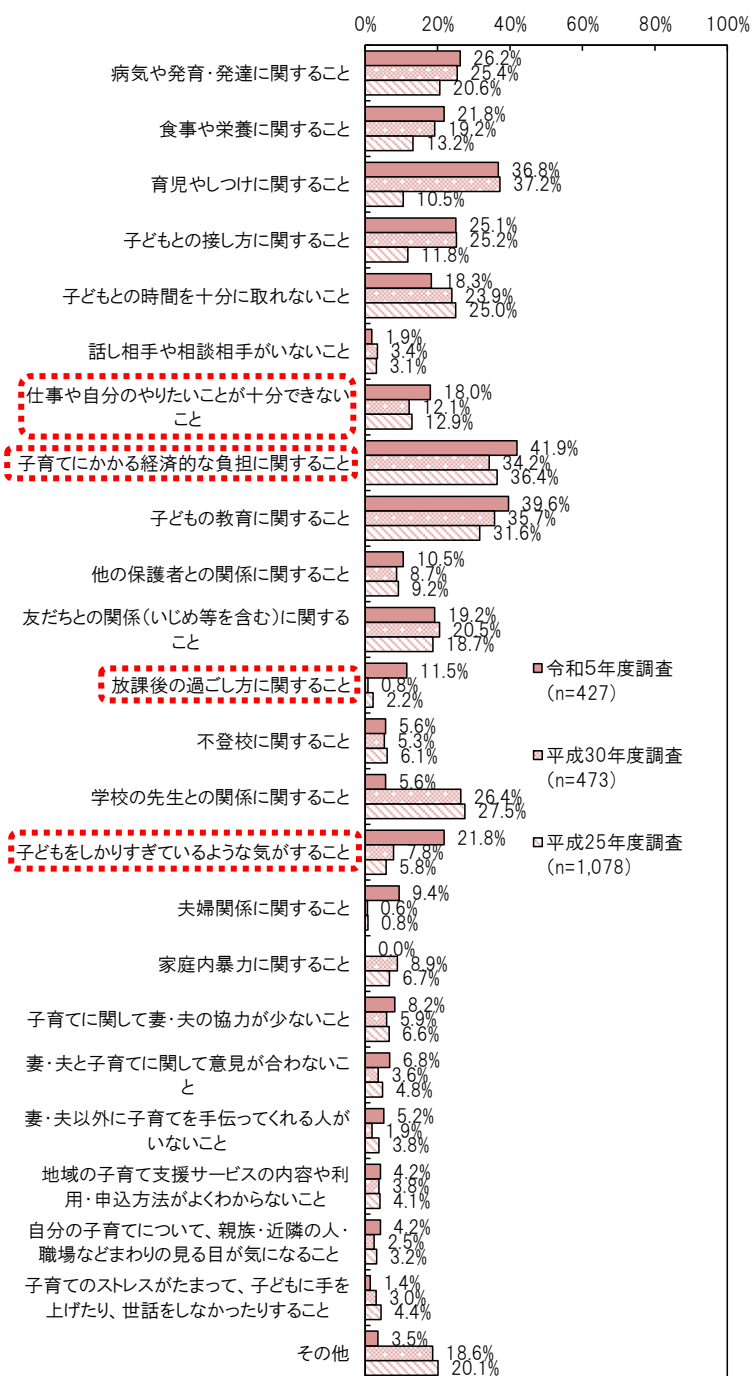
② 小学生児童の保護者の子育てに関して、日ごろ悩んでいることや気になること

「子育てにかかる経済的な負担に関すること」の割合が 41.9%と最も高く、次いで「子どもの教育に関すること」が 39.6%、「育児やしつけに関すること」が 36.8%となっています。

平成 30 年度調査と比べると、「子どもを叱りすぎているような気がする」「放課後の過ごし方に関すること」の回答割合が増加しています。

また、「学校の先生との関係に関すること」の回答割合が減少しています。

※ 前回調査より増加

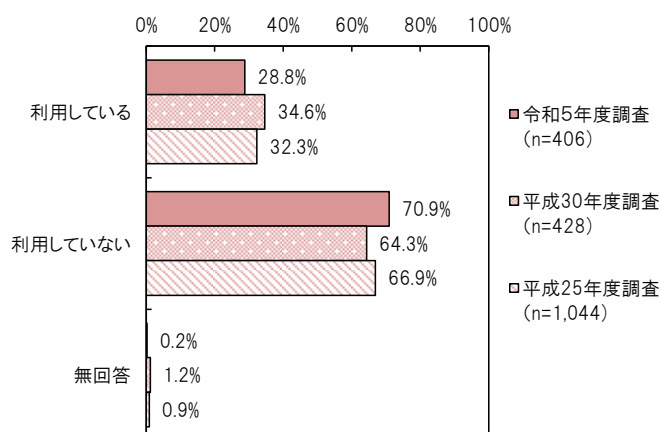


エ 地域子育て支援拠点事業の利用状況

① 就学前児童の保護者の地域子育て支援拠点事業の利用状況

「利用している」の割合が 28.8%、「利用していない」の割合が 70.9%となっています。

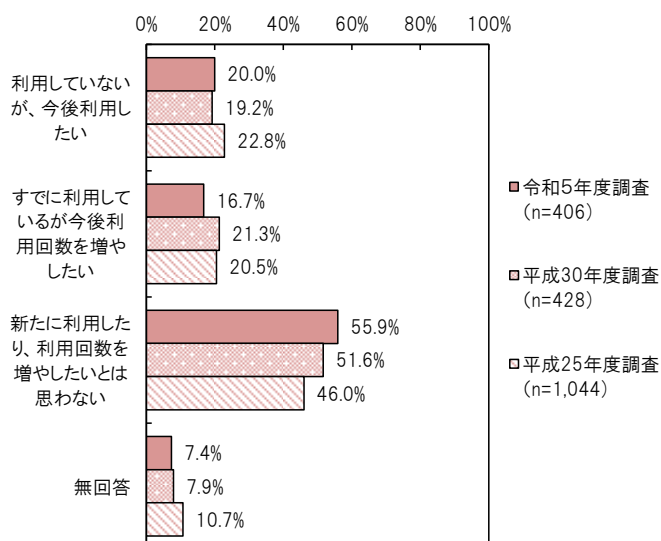
平成 30 年度調査と比較すると、「利用していない」が増加しています。



② 就学前児童の保護者の地域子育て支援拠点事業の利用希望

「新たに利用したり、利用回数を増やしたいとは思わない」の割合が 55.9%と最も高く、次いで「利用していないが、今後利用したい」の割合が 20.0%、「すでに利用しているが今後利用回数を増やしたい」の割合が 16.7%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「すでに利用しているが今後利用回数を増やしたい」の割合が減少しています。

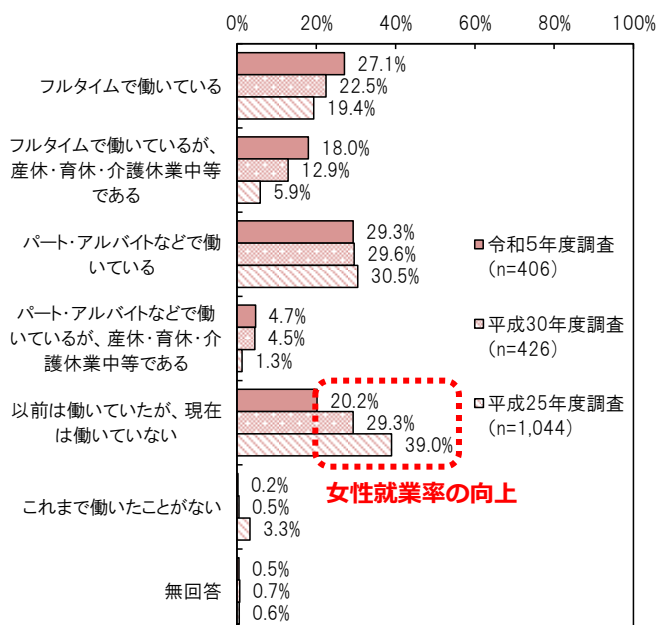


オ 保護者の就労状況

① 就学前児童の母親の就労状況

「パート・アルバイトなどで働いている」の割合が 29.3%で最も高く、次いで「フルタイムで働いている」の割合が 27.1%、「以前は働いていたが、現在は働いていない」の割合が 20.2%となっています。

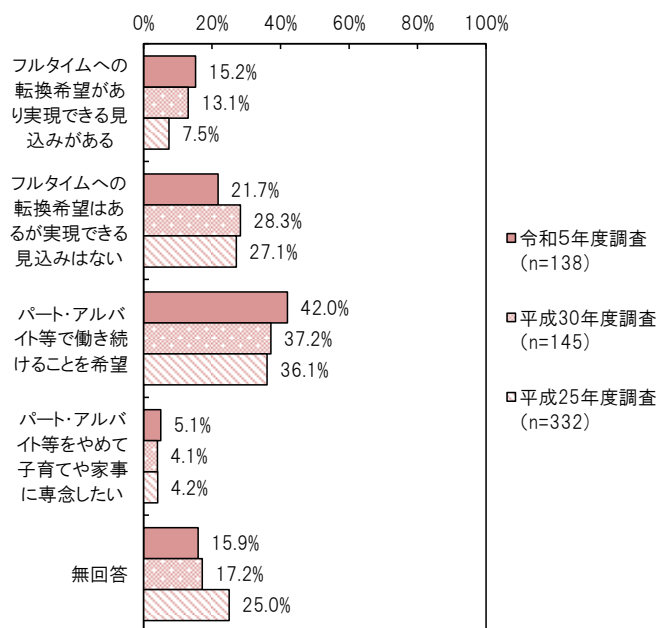
平成 30 年度調査と比較すると、「フルタイムで働いている」「フルタイムで働いているが、産休・育休・介護休業中等である」の割合が増加しています。一方、「以前は働いていたが、現在は働いていない」の割合が減少しています。



② 就学前児童の母親の就労意向（就労者の就労意向）

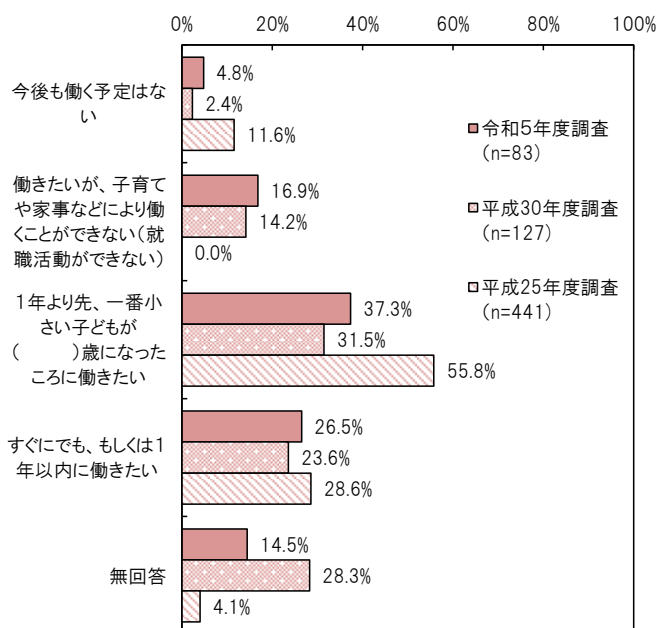
「パート・アルバイト等で働き続けることを希望」の割合が 42.0%と最も高く、次いで「フルタイムへの転換希望はあるが実現できる見込みはない」の割合が 21.7%、「フルタイムへの転換希望があり実現できる見込みがある」の割合が 15.2%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「パート・アルバイト等で働き続けることを希望」「フルタイムへの転換希望があり実現できる見込みがある」の割合が増加しています。



③ 就学前児童の母親の就労意向（未就労者の就労意向）

「1年より先、一番小さい子どもが（ ）歳になったところに働きたい」の割合が37.3%と最も高く、次いで「すぐにでも、もしくは1年以内に働きたい」の割合が26.5%、「働きたいが、子育てや家事などにより働くことができない（就職活動ができない）」の割合が16.9%となっています。

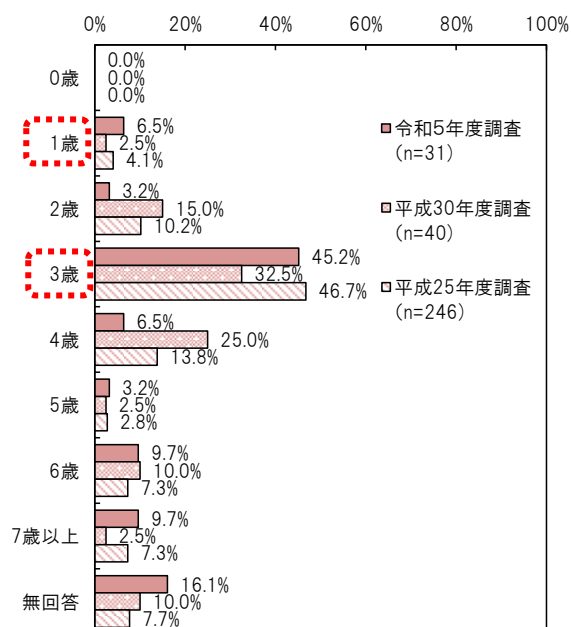


④ 就学前児童の未就労の母親の就労を希望する際の一番下の子どもの年齢

「3歳」の割合が45.2%と最も高く、次いで「6歳」及び「7歳以上」の割合がそれぞれ9.7%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「3歳」の割合が増加しています

※ 1歳 前回調査より増加

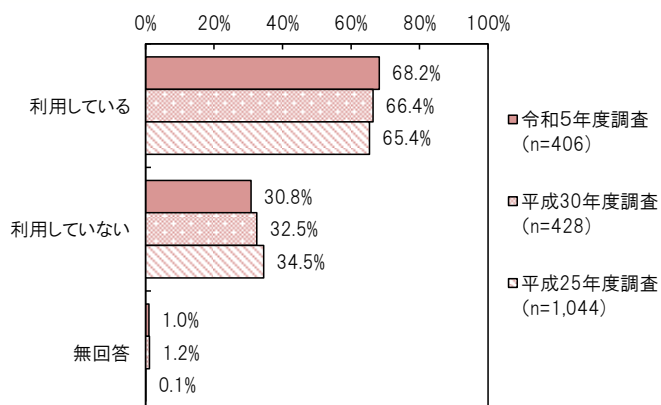


カ 教育・保育施設等の利用状況

① 就学前児童の保護者の平日の定期的な教育・保育事業の利用の有無

「利用している」の割合が 68.2%、「利用していない」の割合が 30.8%となっています。

過去の調査と比較すると、「利用している」の割合が増加しています。

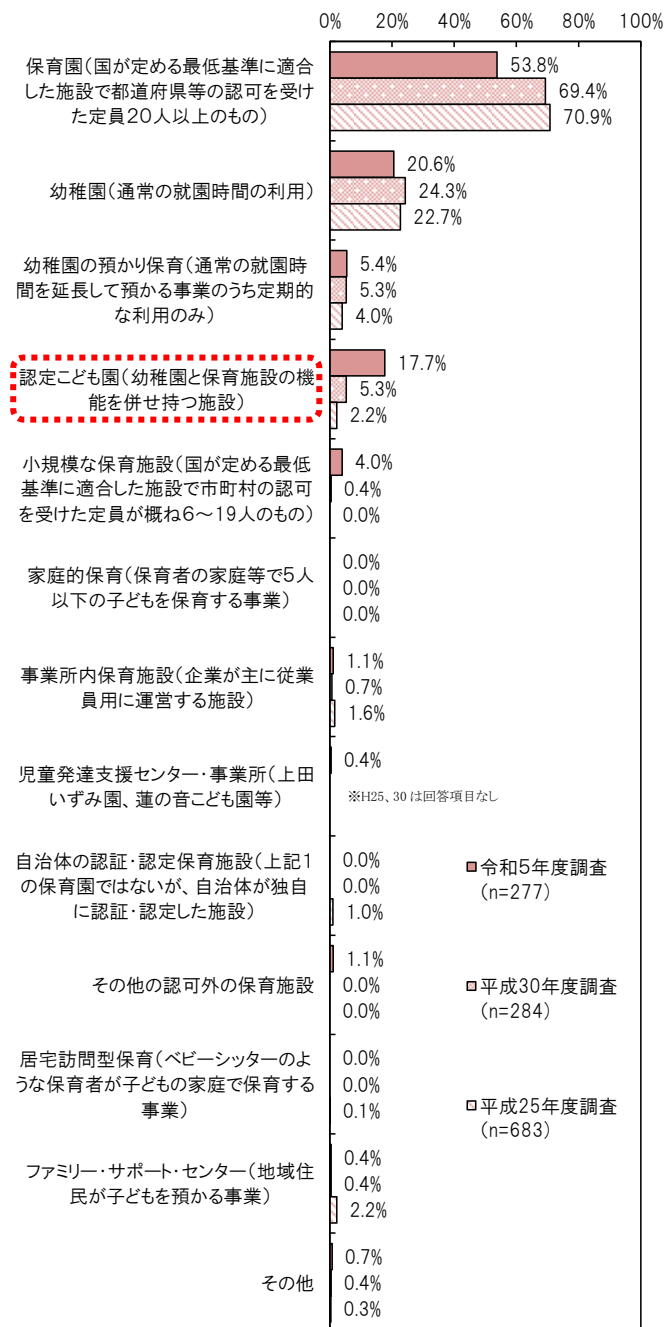


② 就学前児童の保護者の平日の定期的にご利用している教育・保育事業

「保育園（国が定める最低基準に適合した施設で都道府県等の認可を受けた定員20人以上のもの）」の割合が53.8%と最も高く、次いで「幼稚園（通常の就園時間の利用）」の割合が20.6%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「認定こども園（幼稚園と保育施設の機能を併せ持つ施設）」の割合が増加しています。

※ 認定こども園 前回調査より増加



第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

資料編

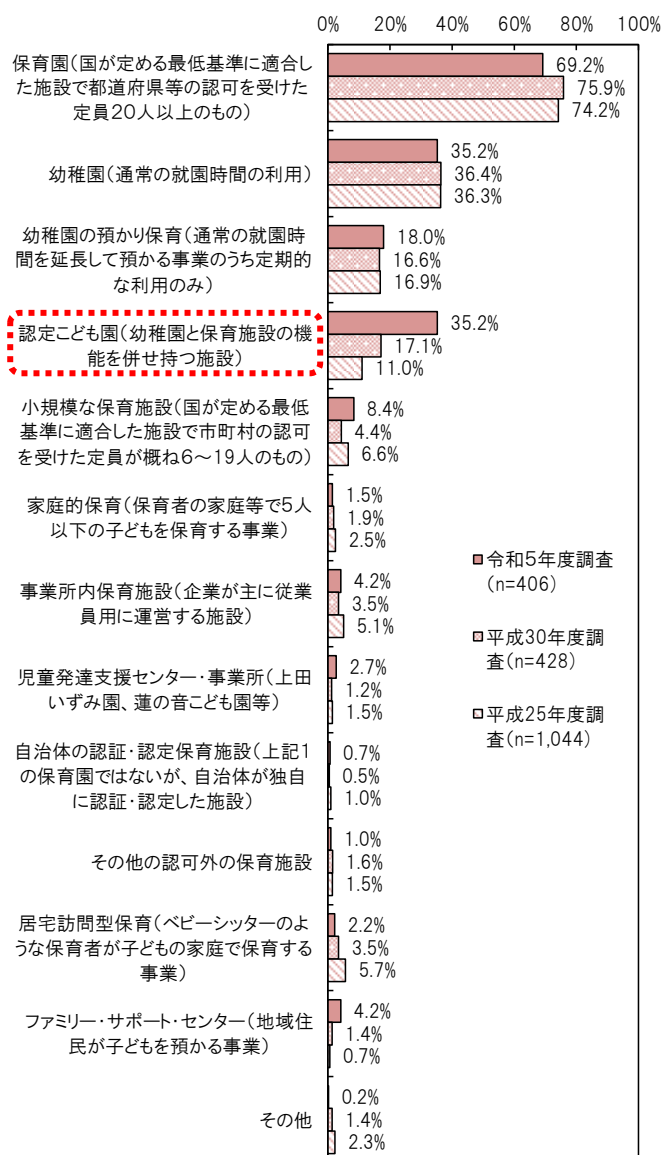


③ 就学前児童の保護者の平日、定期的に利用したい教育・保育事業

「保育園（国が定める最低基準に適合した施設で都道府県等の認可を受けた定員 20 人以上のもの）」の割合が 69.2%と最も高く、次いで「幼稚園（通常の就園時間の利用）」「認定こども園（幼稚園と保育施設の機能を併せ持つ施設）」の割合が 35.2%となっています。

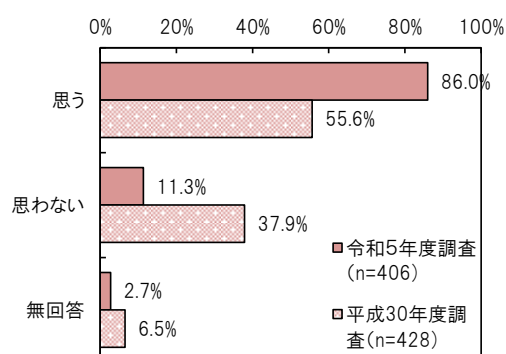
平成 30 年度調査と比較すると、「認定こども園（幼稚園と保育施設の機能を併せ持つ施設）」の割合が増加しています。

※ 認定こども園 前回調査より増加



④ 就学前児童の保護者の理由に関係なく保育園を利用したいと思うか

「思う」の割合が 86.0%、「思わない」の割合が 11.3%となっています。

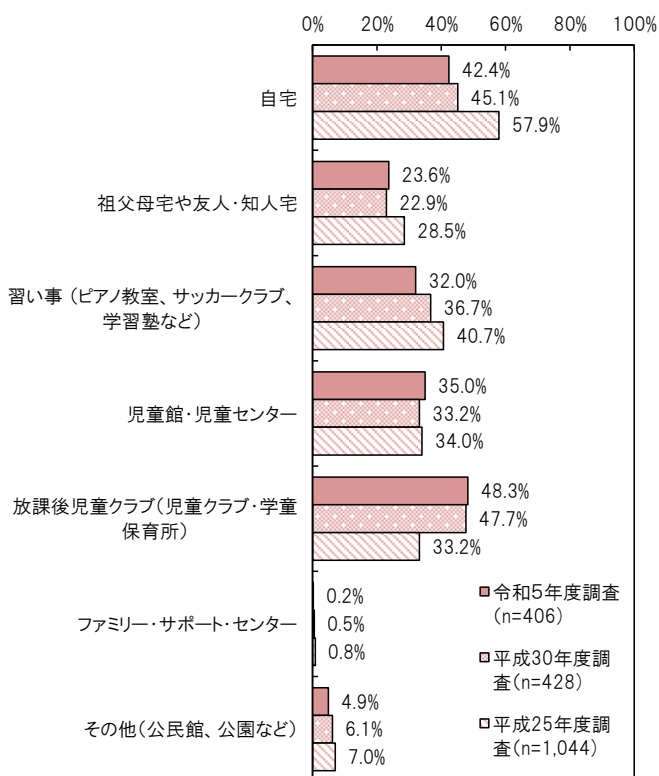


キ 小学校入学後の放課後の過ごし方

① 就学前児童の保護者の小学校就学後（低学年）の放課後に過ごさせたい場所

「放課後児童クラブ（児童クラブ・学童保育所）」の割合が 48.3%と最も高く、次いで「自宅」の割合が 42.4%、「児童館・児童センター」の割合が 35.0%となっています。

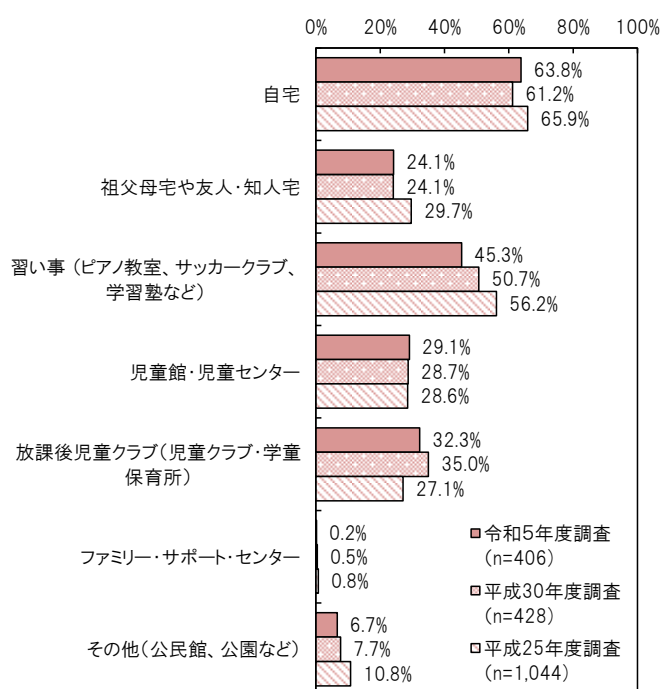
平成 30 年度調査と比較すると、「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」の割合が減少しています。



② 就学前児童の保護者の小学校就学後（高学年）の放課後に過ごさせたい場所

「自宅」の割合が 63.8%と最も高く、次いで「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」の割合が 45.3%、「放課後児童クラブ（児童クラブ・学童保育所）」の割合が 32.3%となっています。

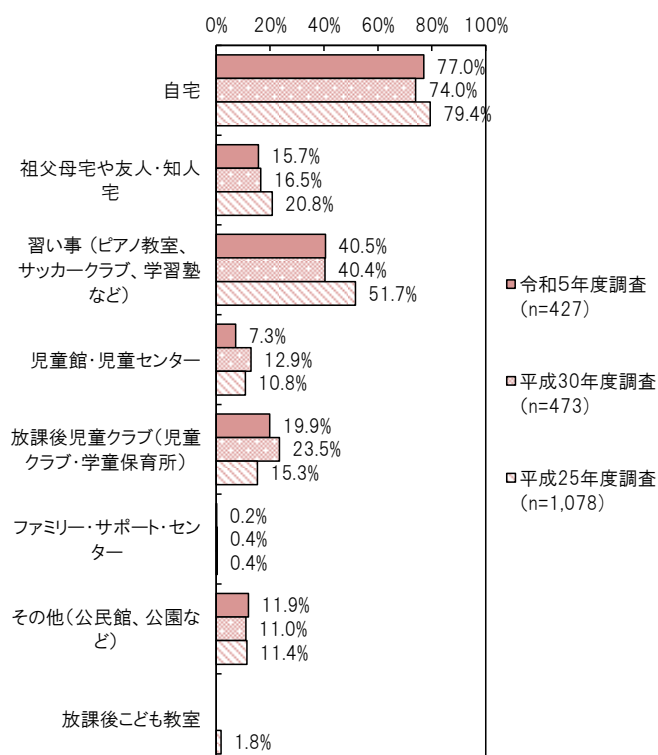
平成 30 年度調査と比較すると、「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」の割合が減少しています。



③ 小学生児童の保護者の小学校就学後（高学年）の放課後に過ごさせたい場所

「自宅」の割合が77.0%と最も高く、次いで「習い事（ピアノ教室、サッカー клуб、学習塾など）」の割合が40.5%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「自宅」の割合が増加している一方、「児童館・児童センター」「放課後児童クラブ（児童クラブ・学童保育所）」の割合が減少しています。



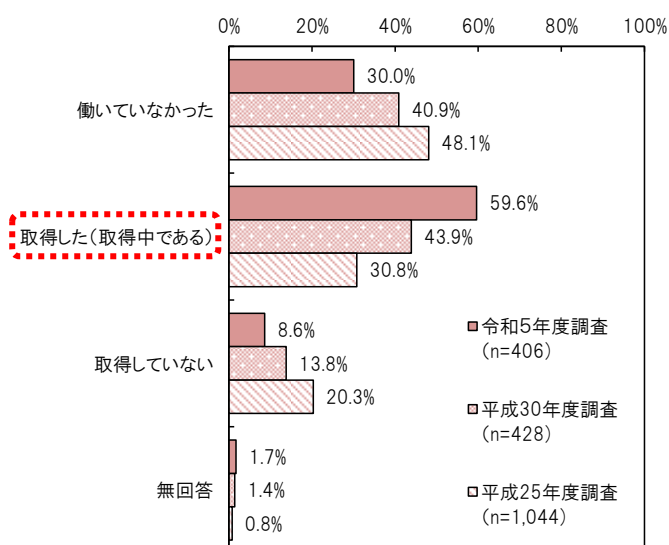
ク 保護者の育児休業の取得状況

① 就学前児童の母親の育児休業の取得状況

「取得した（取得中である）」の割合が59.6%と最も高く、次いで「働いていなかった」の割合が30.0%、「取得していない」の割合が8.6%となっています。

過去の調査と比較すると、「取得した（取得中である）」の割合が増加しています。

一方、「働いていなかった」「取得していない」の割合が減少しています。



※ 取得した（取得中である） 前回調査より増加

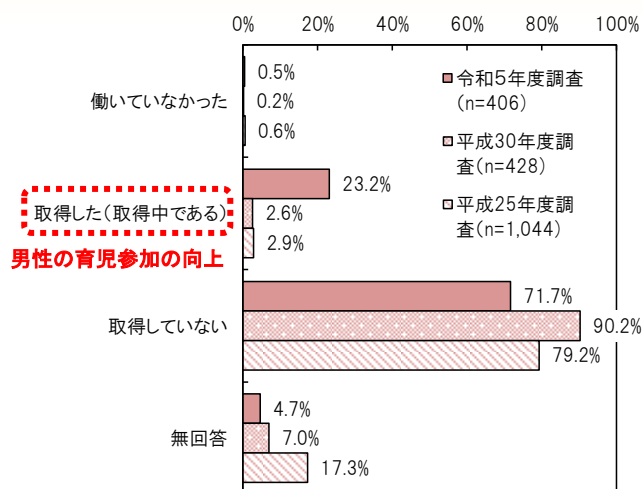


② 就学前児童の父親の育児休業の取得状況

「取得した（取得中である）」の割合が23.2%、「取得していない」の割合が71.7%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「取得した（取得中である）」の割合が増加しています。

※ 取得した（取得中である） 前回調査より増加

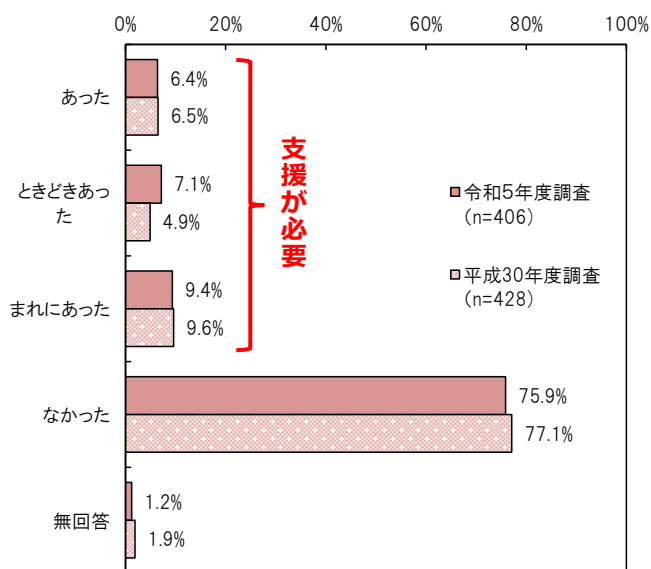


ケ 経済的に困ったこと

① 就学前児童の保護者の過去1年間に経済的な理由により困ったこと

「なかった」の割合が75.9%と最も高くなっています。

平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

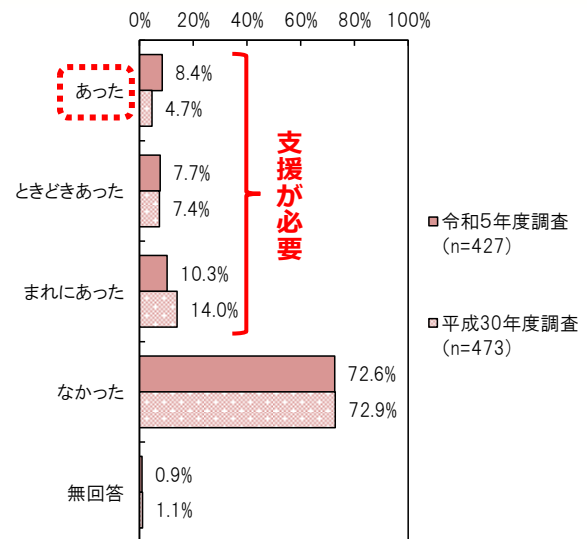


② 小学生児童の保護者の過去1年間に経済的な理由により困ったこと

「なかった」の割合が72.6%と最も高くなっています。

平成30年度調査と比較すると、「まれにあった」の割合が減少している一方、「あった」の割合が増加しています。

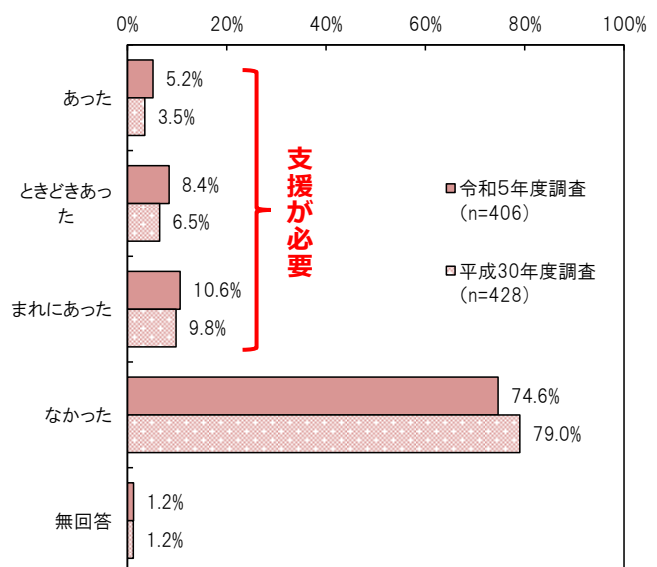
※ あった 前回調査より増加



③ 就学前児童の保護者の子どもの病気やけがの際に受診しなかった経験

「なかった」の割合が74.6%と最も高くなっています。

平成30年度調査と比較すると、「なかった」の割合が減少しています。

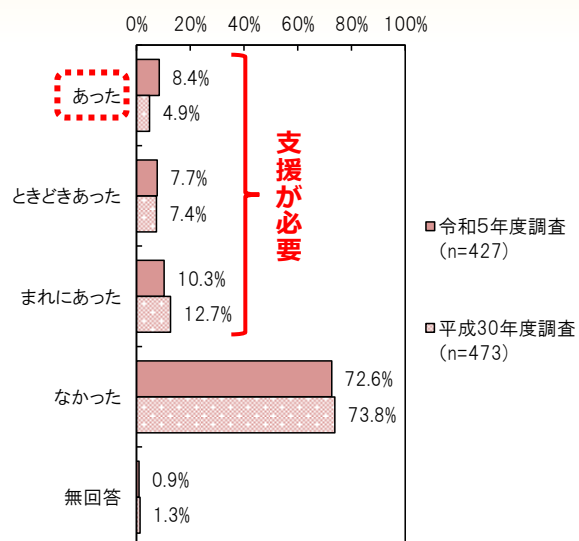


④ 小学生児童の保護者の子どもの病気やけがの際に受診しなかった経験

「なかった」の割合が 72.6%と最も高くなっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「あった」の割合が増加しています。

※ 前回調査より増加

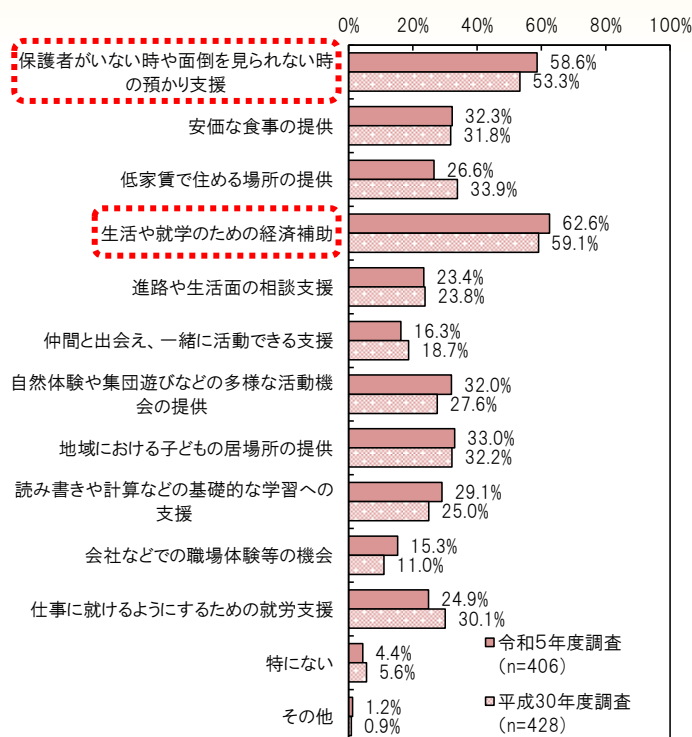


⑤ 就学前児童の保護者の生活に困った場合について受けた支援

「生活や就学のための経済補助」の割合が 62.6%と最も高く、次いで「保護者がいない時や面倒を見られない時の預かり支援」の割合が 58.6%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「保護者がいない時や面倒を見られない時の預かり支援」、「生活や就学のための経済補助」の割合が、令和 5 年度調査でも 5 割を超えています。

※ 前回調査より増加

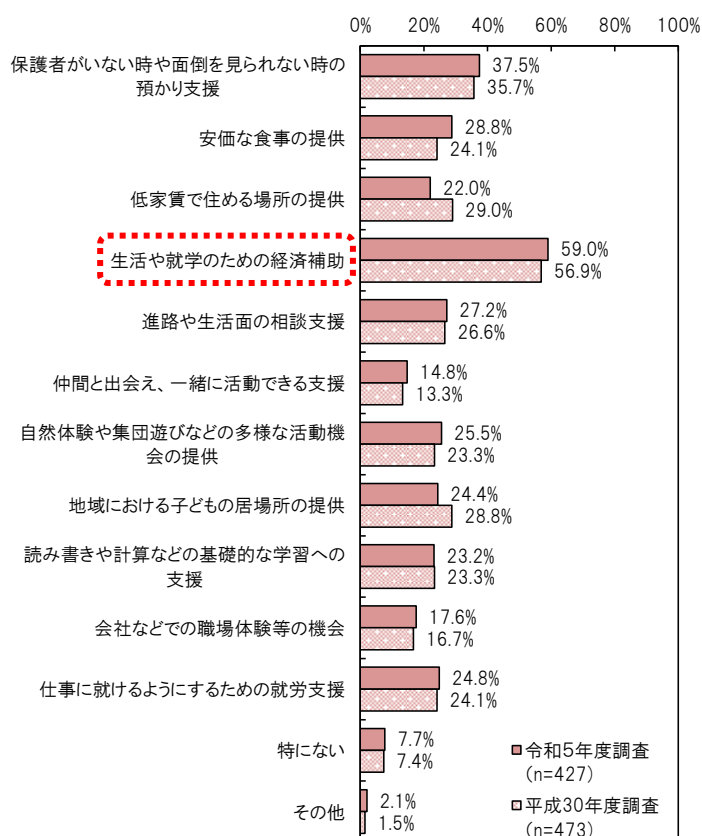


⑥ 小学生児童の保護者の生活に困った場合について受けた支援

「生活や就学のための経済補助」の割合が 59.0%と最も高く、次いで「保護者がいない時や面倒を見られない時の預かり支援」の割合が 37.5%、「安価な食事の提供」の割合が 28.8%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「生活や就学のための経済補助」の割合が、令和 5 年度調査でも 5 割を超えています。

※ 前回調査より増加



コ 保護者の職場復帰時における短時間勤務制度の取得状況

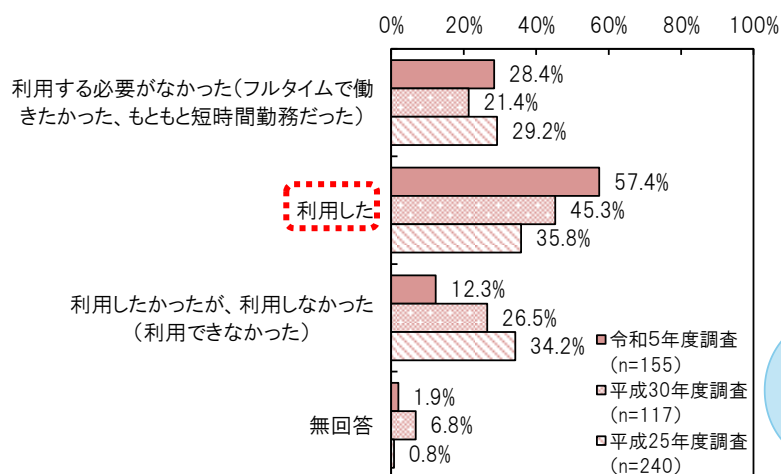
① 就学前児童の母親の短時間勤務制度の取得状況

「利用した」の割合が 57.4%と最も高く、次いで「利用する必要がなかった（フルタイムで働きたかった、もともと短時間勤務だった）」の割合が 28.4%となっています。

過去の調査と比較すると、「利用した」の割合が増加しています。

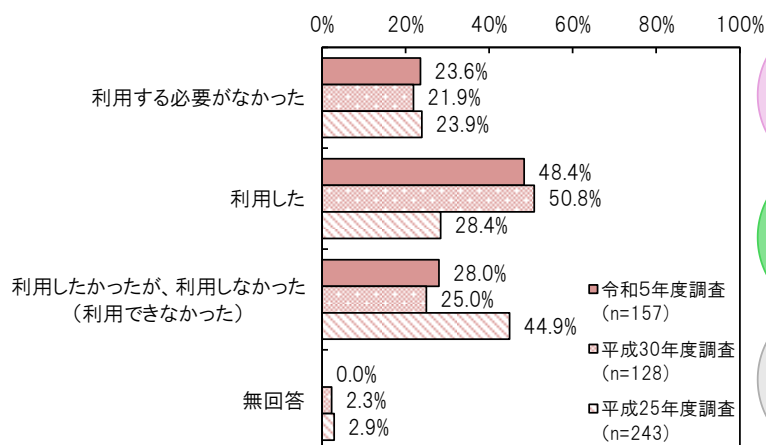
一方、「利用したかったが、利用しなかった（利用できなかった）」の割合が減少しています。

※ 利用した 前回調査より増加



② 小学生児童の母親の短時間勤務制度の取得状況

「利用した」の割合が 48.4%と最も高く、次いで「利用したかったが、利用しなかった（利用できなかった）」の割合が 28.0%、「利用する必要がなかった」の割合が 23.6%となっています。



第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

資料編



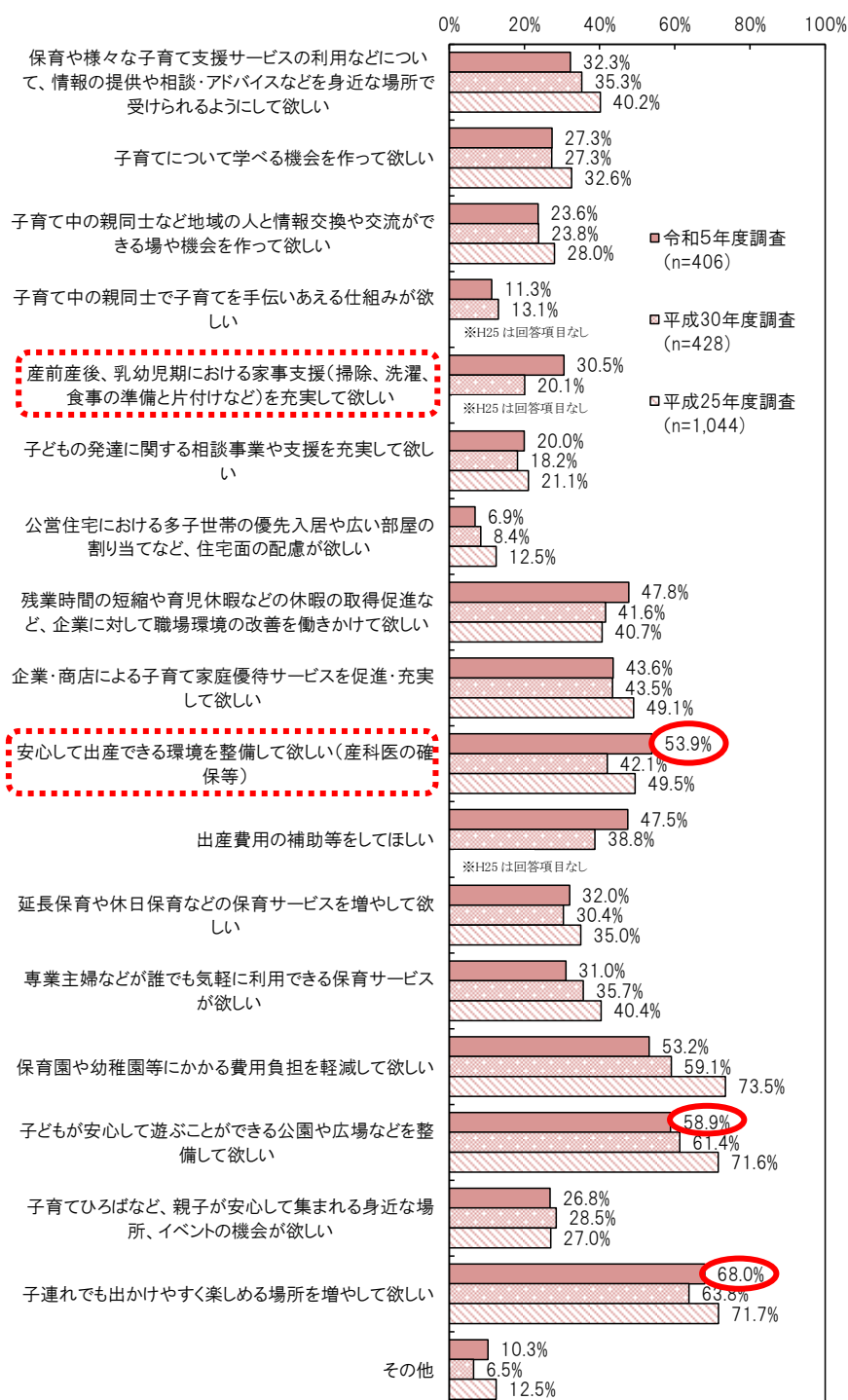
サ 子育ての環境整備の充実のために希望する支援策

① 就学前児童の保護者の子育ての環境整備の充実のために希望する支援策

「子連れでも出かけやすく楽しめる場所を増やして欲しい」の割合が68.0%と最も高く、次いで「子どもが安心して遊ぶことができる公園や広場などを整備して欲しい」の割合が58.9%、「安心して出産できる環境を整備して欲しい（産科医の確保等）」の割合が53.9%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「産前産後、乳幼児期における家事支援（掃除、洗濯、食事の準備と片付けなど）を充実して欲しい」「安心して出産できる環境を整備して欲しい（産科医の確保等）」の割合が増加しています。

※ 前回調査より増加



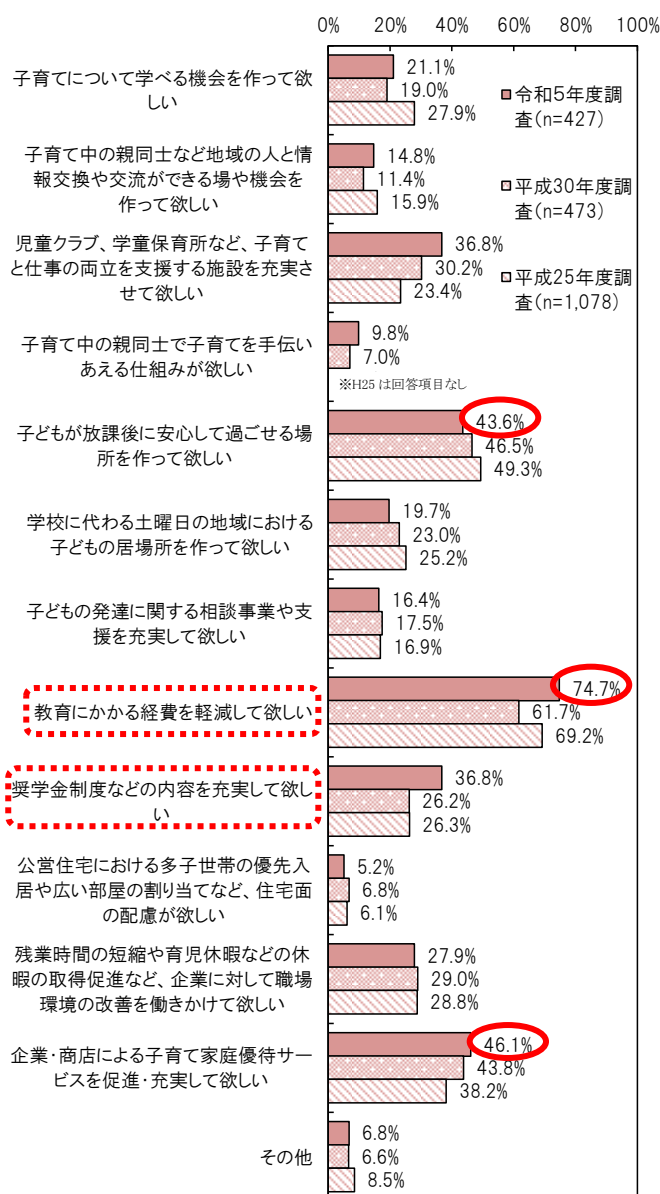
② 小学生児童の保護者の子育ての環境整備の充実のために希望する支援策

「教育にかかる経費を軽減して欲しい」の割合が 74.7%と最も高く、次いで「企業・商店による子育て家庭優待サービスを促進・充実して欲しい」の割合が 46.1%、「子どもが放課後に安心して過ごせる場所を作って欲しい」の割合が 43.6%となっています。

過去の調査と比較すると、「子どもが放課後に安心して過ごせる場所を作って欲しい」

「学校に代わる土曜日の地域における子どもの居場所を作って欲しい」の割合が減少している一方、「児童クラブ、学童保育所など、子育てと仕事の両立を支援する施設を充実させて欲しい」「教育にかかる経費を軽減して欲しい」「奨学金制度などの内容を充実して欲しい」「企業・商店による子育て家庭優待サービスを促進・充実して欲しい」の割合が増加しています。

※ 前回調査より増加



第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

資料編



(3) ワークショップ

対象者	参加者数	テーマ
就学前児童の保護者	9 人	子育てしやすいまちづくりについて
小学生児童の保護者	10 人	
中・高校生生徒の保護者	13 人	
小・中学生の児童・生徒	15 人	私たちの声を届けよう
高校生の生徒	16 人	

会場：ひとまちげんき・健康プラザうえだ健診ホール等

【ワークショップの様子】

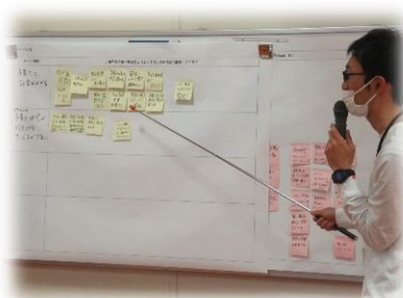
■ワークシートでの意見整理の様子



■付箋紙への意見書き出しの様子



■リレー報告（意見共有）の様子



ア 就学前児童の保護者におけるワークショップの概要

上田市の子育て環境の Good（助かるなぁと感じていること）	
○保育園・幼稚園の充足 ・待機児童が少ない ・幼稚園で託児がある ○公共施設の充実 ・通年でプールに入れる（アクアプラザ上田、ふれあい真田館） ・公園にトイレがある ・ツルヤ、健康プラザ、図書館、公園が歩いて行ける距離にある ○子育て支援の充実 ・母乳・妊婦相談室で身長・体重測定が無料でできる ・3人以上の子どもがいる家庭サービスや優待がある ・保育料の無償化	○医療費の低負担 ・医療費が一律 500 円 ○相談・情報交換の場の充実 ・離乳食相談ができる ・育児サークル「パパカレッジ上田」がある ・NP（ノーバディーズ・パーフェクト）プログラムでパパ友ができた ・にじいろひろばで子育てパパ・ママと意見交換できる ○自然環境・生活環境の良さ ・自然豊富な環境がよい ・公園がたくさんある（市民の森公園、長池公園など） ・野菜をくれる、もらえる、とらせてくれる体験 ・やまぼうし自然学校で自然体験ができる
上田市の子育て環境の Bad（大変だなぁと感じていること）	
○医療機関（診療科）の不足 ・出産できる病院が少ない ・子どもを連れた受診（待ち時間など） ・小児科が少ない（減っている） ・信頼できる（大きな病気を治療できる）病院がない ・緊急医療機関がない ○交通の不便・送迎の負担 ・公共交通機関が不便 ・学校や幼稚園、習い事の送迎 ・急なお迎え ○育児との両立のしにくさ ・育休に対する会社や社会の理解が低い ・育休にあたり、提出する資料が多く混乱する ・仕事と家事・育児の両立 ・少し子どもをみてほしいときにみてくれる人が居ない	○子育て支援サービスや体制の不足 ・育児・介護制度体制が不十分 ・体調不良や申請など 17 時以降の相談ができない ・さまざまな申請が複雑 ○外出場所の不足や外出のしにくさ ・雨の日や冬の時期の遊び場がない ・家の近くにちょっとした公園がない ・授乳室やおむつ替えの設備が不十分 ・子どもを連れて外食できる店が少ない ○教育の選択肢の不足や費用負担 ・教育の選択肢が少ない ・習い事の費用負担 ○地域活動の負担 ・消防団員の減少 ・地域の自治体の役割負担増 ・雪かき
上田市の子育て環境をより良くするための取組の提案・アイデア	
○医療体制の強化策 ・子どもが受診できる病院や、親が受診する際に子どもを連れていける病院のリスト化 ・病院へ行くときの預け先をつくる ・Web サイトの整備 ・佐久医療圏と上田医療圏の統合 ・ドライブスルー診療（コロナ禍での対応ような） ○情報提供の仕方や仕組みの改善策 ・おむつ替えマップや授乳室マップ（Google Map に登録リストがある） ・母子手帳アプリの活用 ・Web サイトの整備、欲しい人に情報を届ける	○遊び場やイベントの充実 ・川辺の活用、里山整備 ・市民参加での公園づくり ・遊休施設の利活用 ・公共施設の利用申請の簡略化 ・雨の日は体育館を開放する ・平日のイベントが多いので、土日のイベントをもっと ・イベントのアナウンスを行う ○送迎の支援（費用負担軽減）策 ・主催団体への補助 ・オンデマンド交通の利用対象

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

資料編



イ 小学生児童の保護者におけるワークショップの概要

上田市の子育て環境の Good（助かるなぁと感じていること）	
○医療対応やサービスの充実 ・福祉医療費助成制度 ・病児保育の年齢の幅が広い ・夜間の小児救急 ○相談窓口や情報交換の場の充実 ・相談窓口がたくさんあり、冊子や HP にまとめられている ・子育て支援センター ・新生児全戸訪問 ・さくらんぼちゃんの会（多胎児を持つ親の会） ○地域による協力体制や支援の充実 ・通学路の雪かき・旗振り ・クラブ活動で地域の方が指導していること ・自治会の催し（子ども会、盆踊りなど） ・子ども食堂など地域の皆さんが子育てを応援してくれること	○託児施設機能の充実 ・ファミリーサポートセンター ・児童クラブ、学童保育所 ・児童館、児童センター ○学校対応の充実 ・PC が一人ずつ貸与されている ・学校給食が充実している ・オクレンジャーで連絡がくる ・スクールバスがある ○体験・学習の場の充実 ・自然が豊かで色々な体験をさせられる ・習い事がたくさんある ○公共施設・設備の充実 ・図書館ネットワークシステム ・公園など子どもと一緒に遊べる場所が多い
上田市の子育て環境の Bad（大変だなぁと感じていること）	
○子どもが病気の際の対応の不足・不安 ・急病で受診できる病院を探すとき ・発熱外来の受け入れが少なく受診ができない ・子どもが熱を出したとき見守ってくれる人がいない ○学校や習い事の場所への交通アクセスの悪さや送迎の負担 ・バスの本数が少ない、電車とバスの接続がうまくできない ・学校が遠い ・習い事の送迎が大変で断念することがある ・今後進学するにつれて通学方法に不安が生じる ○学校関係の親の負担 ・小学 1 年生は帰宅も早く親の負担が大きい ・親がしなくてははいけないこと（図書館袋の作成など）が多い ・学生服、ランドセル、運動着をそろえるのが大変 ・PTA 活動が負担	○子どもの遊び場の不足 ・小学生が遊べる場所が少ない ・小学校高学年が遊べる公園（アスレチックなど）がない ・動物園や博物館など体験学習できる施設があるとよい ・学童などの施設が古い ・子どもも忙しくなり外で遊ぶことがない ○子育てにかかる費用負担 ・子育てにお金がかかる ・持ち物等が高価になっていく（友達も持っているからほしいと言う） ○子育て支援に関する情報発信の不足 ・どんなサービスがあるか知らない ○子どもの長期休み対応の不足 ・長期休みのお昼（お弁当） ・長期休みは児童センターの預かりが 9 時からで仕事に間に合わない
上田市の子育て環境をより良くするための取組の提案・アイデア	
○医療機関の受診支援サービス ・病院の発熱外来の空きが広域で、かつリアルタイムでわかる HP やアプリ、検査キットの無料配布 ○地域の協力体制や人材活用 ・地域の人が入りやすい学校運営 ・地域の人や元先生によるクラブ活動や総合学習 ・地域の人材リストの作成（指導役になってくれる人） ○公共交通の利便性向上施策 ・ライドシェアの導入、デマンドバスの全市化 ・学校や会社の勤務に合わせたバスの時刻表にする	○仕事と子育ての両立推進策 ・労働時間の是正（定時に退社して家に帰れるようにする） ・男性の意識改革や企業の理解の促進 ○遊び場の提供や体験のサービス・事業化 ・学校のグラウンド開放 ・保護動物とふれあうような事業 ・創造館の活用や子どもの体験を前面に出す企画 ・体育施設の道具のレンタル事業 ○経済的な支援策 ・日本全体の賃金水準アップ、給食費の無料化



ウ 中・高校生生徒の保護者におけるワークショップの概要

上田市の子育て環境の Good（助かるなぁと感じていること）	
○相談窓口や体制の充実 ・子育て支援センターが複数箇所ある ・子育ての相談ができる機関が1つに集約されている ・発達に関する専門センターがある、専門家がたくさんいる ○医療サービス・対応の充実 ・福祉・医療費の助成制度が18歳まで適用される ・小児救急センターの休日応診 ・学校で血液検査をしてくれる ○学校関係の環境や対応の充実 ・制服・運動着のリサイクル ・学校の給食が充実している ・給食のアレルギー対応 ・中学の校則がゆるめ ・市内に高校が多くある	○経済的支援の充実 ・上田市からお祝い金がもらえる ・子育て家庭優待パスポートが高校卒業までである ・高校生の通学（交通費）助成 ○公共施設・設備の充実 ・上田図書館（本の取り寄せやインターネットの予約、勉強ができる） ・サントミュージゼ ・公園の遊具がここ数年で新しくなっている ○生活環境やイベントの充実 ・温泉がいくつもある ・アリオ（映画、遊び場）が近い ・市内に公園がわりとある ・千本桜まつりなどのお祭りやイベントが催される
上田市の子育て環境の Bad（大変だなと感じていること）	
○中・高校生向けの支援の不足 ・義務教育が終わると子どものサポート体制が減る ・気軽に相談できる場所がない ・高校生が相談するところ少ない ○医療機関（診療科）の不足 ・皮膚科が混んでいる ・医療機関（かかりつけ医）が見付けにくい ○食事づくりの負担や介護との両立の大変さ ・食事づくり ・高校生のお弁当づくり ・自分の親の高齢化と子育ての両立 ○送迎の負担や通学の安全面の不安 ・学校や部活、習い事の送迎が大変 ・公共交通機関が使いにくく、費用も高い ・夜道が暗い（安全に歩ける通学路の整備が必要）	○学校関係の費用負担 ・学費が高い ・学校の必需品（タブレット、制服、ジャージ）が高い ・習い事の月謝 ・通学費補助（市外高校への）の判定が厳しい ○学校の体制・サポートの不足 ・学校によってサポートルームあるところとないところがある ・塾に頼らず校内で学習サポートしてほしい ・特別支援級の教員不足 ○中・高校生の居場所の少なさ ・中・高校生が無料で楽しく過ごせる場少ない ・中・高校生が学習できるスペースがない ○その他 ・スマホ依存（情報や誘惑が多く不安）
上田市の子育て環境をより良くするための取組の提案・アイデア	
○費用負担の軽減策 ・みんなが使うもの（教科書等）の無償化 ・給食費の無償化 ・私立高校学費の無償化 ・給付型奨学金拡大 ・高校で使うタブレットの貸出 ・部活にかかる費用の補助 ○交通サービス（送迎負担軽減策） ・乗合タクシーやデマンドバス、ライドシェアの導入 ・A I ・自動運転車の導入 ・バスの本数を増やす ・スクールバスの導入	○中・高校生向けの支援の充実 ・中・高校生向けの情報を自動配信する ・年齢別・男女別の悩み相談 ○中・高校生の居場所づくり ・使われていない施設や空き家の利活用 ・中・高校生が健全に集まれるスペース ・子どもが家庭外で勉強できるスペース ・校外で中・高校生が気兼ねせず体を動かせる場所 ○学力や生活力の向上支援策 ・放課後寺子屋、勉強を教えてくれる ・子ども自身が食事をつくれるように学校でも教える

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

資料編



エ 小・中学生の児童・生徒におけるワークショップの概要

お母さん、お父さん、おばあちゃん、おじいちゃんが自分のためにしてくれている（と思う）こと	
○家事をしてくれること ・ご飯を作ってくれる ・お弁当を毎日作ってくれる ・洗濯をしてくれること ・家の掃除をしてくれる ・金魚の水槽の掃除 ・食器洗い ・髪を切ってくれる ・犬の散歩 ○働いてくれていること ・働いてくれている ○お金をくれる・払ってくれること ・お小遣い、お年玉をくれる ・欲しいものを買ってくれる ・月謝を払ってくれる ・習い事に必要なものを買ってくれる ・学校のお金を出してくれる ・塾に行かせてくれる	○送り迎えをしてくれること ・遊びに行くときの送り迎え ・学校への送り迎え ・習い事の送り迎え ○一緒にしてくれること ・工作を手伝ってくれる ・宿題、勉強をみしてくれる ・ボールで遊んでくれること ・カブトムシ、クワガタを取りに行く ・話したり一緒に遊んでくれる ・カラオケで一緒に歌ってくれる ・一緒にアニメを見てくれる ・テスト前は一緒に勉強してくれる ○連れて行ってくれること ・旅行に連れて行ってくれる ・色々な場所に連れて行ってくれる
お母さん、お父さん、おばあちゃん、おじいちゃんがこんなことしてくれること（とき）がうれしい・楽しい	
○一緒にしてくれること ・勉強を教えてくれる ・一緒に話をして盛り上がる ・ノリがよくツッコミが面白い ・一緒にお菓子をつくっているとき ・みんなでのんびりしているとき ○連れて行ってくれる・買ってくれること ・色々な場所に連れて行ってくれる ・動物園に連れていってくれる ・外食に行くとき ・おもちゃを買ってくれるとき	○見守ってくれること ・励ましてくれる ・褒めてくれる ・慰めてくれる ・一緒に喜んでくれる ・話を何時間でも聞いてくれる ○好きなことをやらせてくれること ・騒いでもあまり怒らない ・好きなことをやらせてくれる ・ゲームをする時間をつくってくれる ○ご飯をつくってくれること ・好きなご飯をつくってくれたとき ・おいしいものをつくってくれる
お母さん、お父さん、おばあちゃん、おじいちゃんにもっとこうしてほしいと思っていること	
○お小遣いや欲しいもの ・お小遣いがもっとほしい ・お小遣い制度がほしい ・スマホを買ってほしい ・もっとゲームを買ってほしい ・服をたくさん買ってほしい ・よいスパイクを買ってほしい ・新しいそろばんを買ってほしい ・犬や猫を好きになってほしい ○しないでほしいこと ・あまり強く怒らないでほしい ・勉強のことを言ってくるのが嫌だ	○好きにやらせてほしいこと ・もっとカラオケに行きたい ・ゲームする時間を増やしてほしい ・友だちと遊ばせてほしい ○直してほしいこと ・しっかり方法を伝えてほしい ・5分遅れ行動に気を付けてほしい ・駅までの渋滞を考えて行動してほしい ・姉とよく名前を間違えないでほしい ○一緒にしてほしいこと ・勉強を教えてほしい ・片づけを手伝ってほしい ・休みの日には家にいてほしい ・自分にも関わることは1回聞いてほしい



オ 高校生の生徒におけるワークショップの概要

日頃、お母さんやお父さんの姿をみて「大変そうだな」、「大丈夫かな」と思う（思った）こと	
○仕事が忙しい ・ 残業や長時間労働 ・ 仕事の休みが少ない ・ 子どもが風邪をひいたときに仕事をなかなか休めない ・ 小さいときにもっと色々なところに連れて行ってほしかった ○学校の役割の負担 ・ PTA の仕事、学校行事への出席、朝の旗当番 ○送迎の負担 ・ 毎日の送り迎え ・ 練習試合や大会などへの送迎 ・ 習い事や部活の送迎 ・ 雪や雨のときの送迎 ・ 送迎の時間が被っていたとき ・ 電車の本数が限られてしまうため、送迎に手間をとらせてしまう ○経済的負担 ・ 物価が高い ・ 兄弟が多い家庭の経済が苦しい	○教育や部活動の費用負担 ・ 教科書、制服が高い ・ 私立高校の高い学費 ・ 大学入試にお金がかかる ・ 部活の道具や大会費が高い ・ 習い事に関するお金がかかる ○家事や買い物、家族支援の負担 ・ 朝・昼・晩のごはんづくり ・ 仕事終わりなのに休む暇もなくご飯の支度を始めていること ・ 毎日のお弁当づくり ・ スーパーが遠い ・ 祖父母の通院の手伝い ○地域との関わりの困難 ・ 地域住民との付き合い ・ 地域の同年代の子が少なく集まりが悪い
日頃、お母さんやお父さんの姿をみてもっとこうしてほしいな・こうあってほしいなと感じている（いた）こと	
○子育て・介護支援の充実 ・ 児童館のような居場所を増やしてほしい ・ 一時的に子どもを預けられる場所 ・ 悩みや不安を気軽に相談できる場所 ・ 保育園などを増やしてほしい ・ 子育てにかかる費用を減らしてほしい ・ 介護のしやすい環境 ・ 通院を手伝ってくれるような代行サービス ○交通の便の向上 ・ 送迎バスなどがあると便利 ・ 電車の本数が増えたら便利	○安全性の向上 ・ 安全に歩けるような道 ・ 安全性の高い公園 ○地域との関わり方 ・ 地域での活動を増やしてほしい ・ 同じ地域の親たちで集まれる場所 ・ 高校生が地域と関わる機会を増やす ○教育費用の負担軽減 ・ 学校指定のものを安くしてほしい ○直してほしいこと ・ 自分のやりたいことを否定してやらせてくれないこと ・ 「兄・姉だから」で厳しくなること、態度を変えること
課題解決に有効だと思う政策案やアイデア	
○働き方の改善策や改革 ・ 仕事の量を減らしみんなで分担 ・ 仕事の期限を延ばしてもらう ・ 絶対に休む日を会社や行政が決める ・ リモートワークを増やす、残業を減らす（会社側のメリットを示す、市によるキャンペーン） ・ 家族の状況に応じた仕事量にする（休日対応も含めて） ・ 人員を増やしたり、ロボットなどを導入する ・ 仕事の役割をはっきりさせる ○家事的負担軽減策 ・ 家事代行サービス ・ 学校に購買や食堂を設置する ・ 子どもが自分でできるように家事的 ToDo リストを学校や行政で発行 ・ 子どもの居場所（こども食堂など）の提供	○教育費用の負担軽減策 ・ 子どもの数などで学費を安くする ・ 中学の制服をなくす ・ 制服やランドセルのリサイクルの情報提供支援 ・ 先輩の教科書のおさがりをもらう ○交通の便の改善策 ・ 電車やバスの本数を増やす ・ 部活の大会は学校がバスを出す ○学校の役割の負担軽減策 ・ 小中高で行事をずらす ・ PTA 会長など大きい役割は兄弟が少ない家庭順にやる ・ 旗当番は地域の人などを市が雇用 ○経済的な負担軽減策 ・ 子育て家庭が買い物するとき割引 ・ 消費税を下げる、賃金を上げる

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

資料編

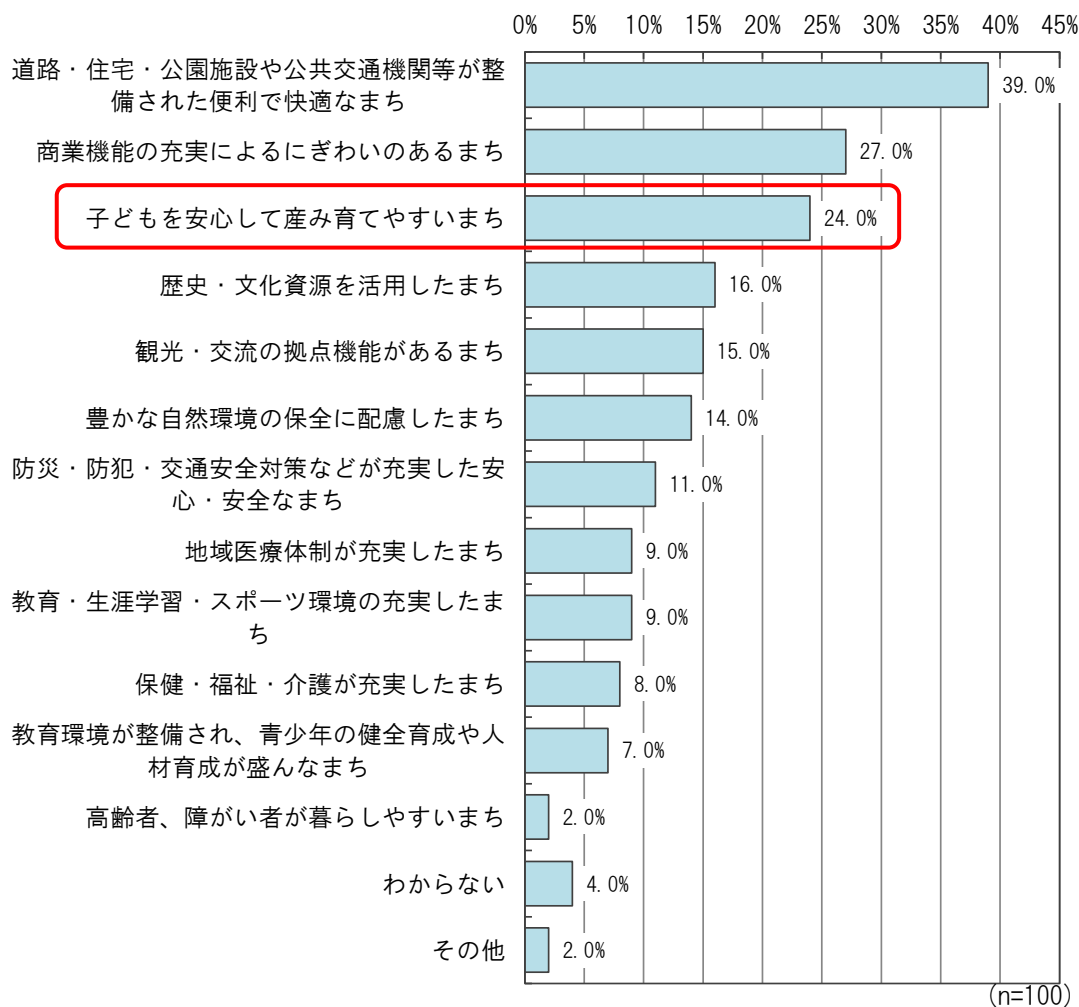


(4) その他のアンケート結果の概要

ア 上田市総合計画策定にともなう大学生・専門学校生等アンケート（令和6年度）

① 上田市の目指す姿について

「道路・住宅・公園施設や公共交通機関等が整備された便利で快適なまち」(39.0%)が最も高くなっています。次いで「商業機能の充実によるにぎわいのあるまち」(27.0%)、「子どもを安心して産み育てやすいまち」(24.0%)となっています。

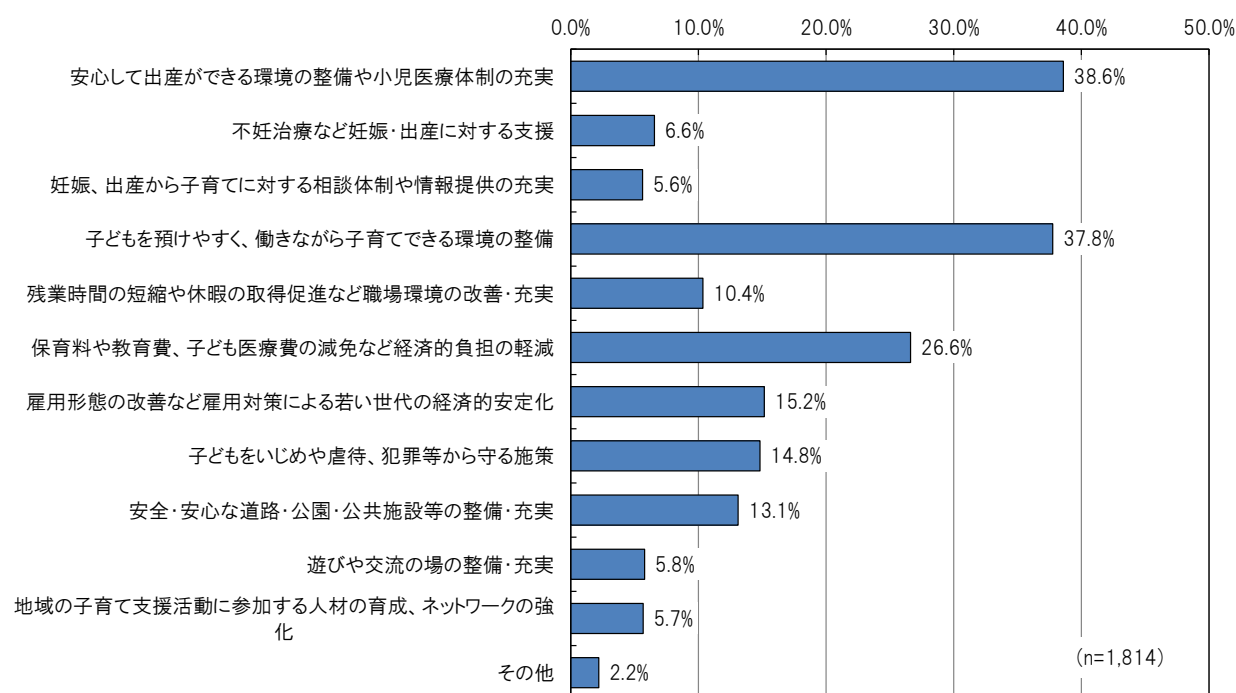


イ 上田市総合計画策定にともなう上田市住民アンケート

① 今後、力を入れて取り組む必要がある子育て支援策について

力を入れて取り組む必要がある子育て支援策については、「安心して出産ができる環境の整備や小児医療体制の充実」(38.6%)、「子どもを預けやすく、働きながら子育てできる環境の整備」(37.8%)が高く、次いで「保育料や教育費、子ども医療費の減免など経済的負担の軽減」(26.6%)が続く結果となっています。

年代別では、20歳代以下及び、30歳代は「保育料や教育費、子ども医療費の減免など経済的負担の軽減」の回答割合が他の年代に比べ高くなっています。



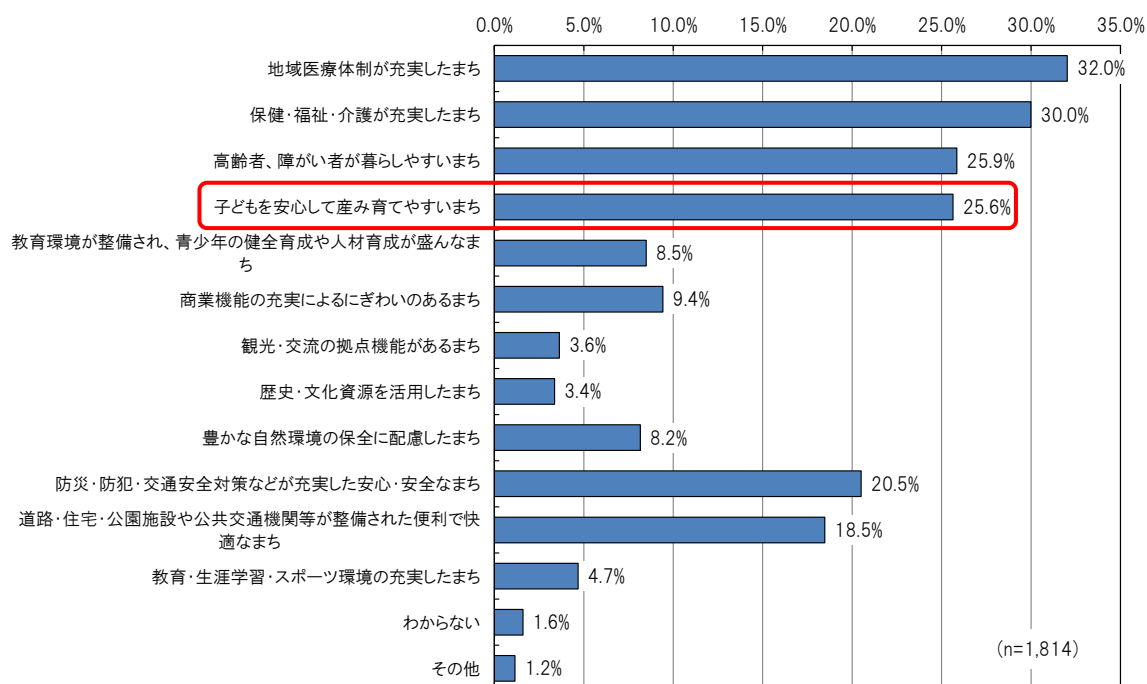
	20歳代以下 (n=125)	30歳代 (n=152)	40歳代 (n=216)	50歳代 (n=275)	60歳代 (n=342)	70歳代以上 (n=694)	無回答(n=10)	全体 (n=1814)
安心して出産ができる環境の整備や小児医療体制の充実	23.2%	34.2%	34.3%	38.9%	46.2%	39.6%	50.0%	38.6%
不妊治療など妊娠・出産に対する支援	14.4%	9.2%	11.1%	7.6%	3.8%	4.0%	10.0%	6.6%
妊娠、出産から子育てに対する相談体制や情報提供の充実	8.0%	5.9%	6.9%	5.5%	4.1%	5.6%	0.0%	5.6%
子どもを預けやすく、働きながら子育てできる環境の整備	39.2%	32.2%	31.9%	34.5%	43.9%	38.6%	50.0%	37.8%
残業時間の短縮や休暇の取得促進など職場環境の改善・充実	16.0%	15.8%	13.4%	12.0%	7.9%	7.9%	0.0%	10.4%
保育料や教育費、子ども医療費の減免など経済的負担の軽減	40.0%	43.4%	31.9%	24.0%	24.9%	20.9%	20.0%	26.6%
雇用形態の改善など雇用対策による若い世代の経済的安定化	22.4%	13.8%	14.4%	13.5%	16.4%	14.4%	20.0%	15.2%
子どもをいじめや虐待、犯罪等から守る施策	8.8%	11.8%	10.2%	18.9%	16.4%	15.7%	10.0%	14.8%
安全・安心な道路・公園・公共施設等の整備・充実	8.8%	11.8%	17.1%	14.5%	14.0%	12.0%	10.0%	13.1%
遊びや交流の場の整備・充実	7.2%	3.9%	9.7%	8.0%	2.6%	5.5%	0.0%	5.8%
地域の子育て支援活動に参加する人材の育成、ネットワークの強化	2.4%	4.6%	3.7%	4.4%	6.7%	7.2%	0.0%	5.7%
その他	0.8%	3.9%	4.6%	2.5%	0.6%	2.0%	0.0%	2.2%



② 現在住んでいる地域が将来どんな地域になったら良いと思うか

「地域医療体制が充実したまち」が 32.0%で最も高く、次いで「保健・福祉・介護が充実したまち」(30.0%)、「高齢者、障がい者が暮らしやすいまち」(25.9%)、「子どもを安心して産み育てやすいまち」(25.6%) が高い結果となっています。

「子どもを安心して産み育てやすいまち」は、20 歳代以下及び、30 歳代で特に高く、市全体では 25.6%であるのに対し、それぞれ 41.6% (16.0 ポイント差)、49.3% (23.7 ポイント差) となっています。



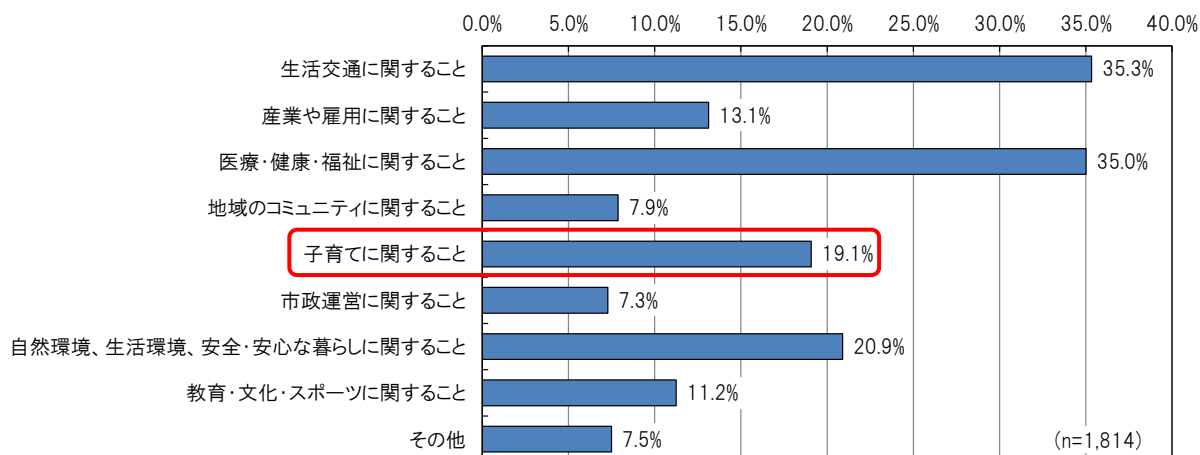
	20歳代以下 (n=125)	30歳代 (n=152)	40歳代 (n=216)	50歳代 (n=275)	60歳代 (n=342)	70歳代以上 (n=694)	無回答(n=10)	全体 (n=1814)
地域医療体制が充実したまち	20.8%	32.2%	27.8%	33.1%	36.8%	32.4%	40.0%	32.0%
保健・福祉・介護が充実したまち	23.2%	17.1%	23.6%	30.2%	31.9%	35.2%	20.0%	30.0%
高齢者、障がい者が暮らしやすいまち	8.0%	12.5%	19.4%	26.2%	31.3%	31.0%	40.0%	25.9%
子どもを安心して産み育てやすいまち	41.6%	49.3%	28.2%	20.0%	23.1%	20.3%	20.0%	25.6%
教育環境が整備され、青少年の健全育成や人材育成が盛んなまち	13.6%	10.5%	9.7%	9.1%	5.3%	8.2%	0.0%	8.5%
商業機能の充実によるにぎわいのあるまち	18.4%	13.8%	16.7%	9.5%	8.2%	5.3%	0.0%	9.4%
観光・交流の拠点機能があるまち	5.6%	6.6%	5.1%	5.1%	2.9%	2.0%	0.0%	3.6%
歴史・文化資源を活用したまち	2.4%	4.6%	3.2%	3.3%	4.4%	2.9%	0.0%	3.4%
豊かな自然環境の保全に配慮したまち	9.6%	5.3%	8.8%	8.7%	11.1%	6.8%	0.0%	8.2%
防災・防犯・交通安全対策などが充実した安心・安全なまち	14.4%	13.2%	15.3%	18.5%	21.6%	25.1%	20.0%	20.5%
道路・住宅・公園施設や公共交通機関等が整備された便利で快適なまち	22.4%	16.4%	26.9%	21.8%	16.1%	15.7%	0.0%	18.5%
教育・生涯学習・スポーツ環境の充実したまち	7.2%	9.9%	8.3%	3.6%	3.2%	3.2%	0.0%	4.7%
わからない	1.6%	0.7%	0.5%	1.8%	1.5%	2.2%	0.0%	1.6%
その他	0.0%	2.6%	2.3%	1.1%	0.6%	1.0%	0.0%	1.2%



③ 今後のまちづくりや市政について

今後のまちづくりや市政についてのご意見・ご要望、ご提案については、「生活交通に関する
こと」(35.3%)、「医療・健康・福祉に関すること」(35.0%) が突出して多く、次いで「自然
環境、生活環境、安全・安心な暮らしに関すること」(20.9%)、「子育てに関すること」(19.1%)
となっています。

年代別にみると、30歳代は「子育てに関すること」の回答割合が突出して高く、42.1%（市
全体と比べて 23.0 ポイント差）となっています。



	20歳代以下 (n=125)	30歳代 (n=152)	40歳代 (n=216)	50歳代 (n=275)	60歳代 (n=342)	70歳代以上 (n=694)	無回答(n=10)	全体 (n=1814)
生活交通に関すること	32.8%	27.0%	29.6%	37.5%	38.0%	37.6%	10.0%	35.3%
産業や雇用に関すること	11.2%	12.5%	11.6%	13.1%	12.6%	14.3%	20.0%	13.1%
医療・健康・福祉に関すること	17.6%	30.9%	25.9%	31.3%	43.3%	38.9%	60.0%	35.0%
地域のコミュニティに関すること	6.4%	5.3%	5.1%	6.9%	9.4%	9.4%	0.0%	7.9%
子育てに関すること	20.8%	42.1%	22.2%	16.0%	18.7%	14.1%	20.0%	19.1%
市政運営に関すること	6.4%	7.2%	8.8%	4.7%	5.0%	8.9%	20.0%	7.3%
自然環境、生活環境、安全・安心な暮らしに関すること	13.6%	12.5%	12.5%	20.4%	20.5%	26.9%	30.0%	20.9%
教育・文化・スポーツに関すること	12.8%	9.9%	15.7%	10.9%	10.5%	10.4%	10.0%	11.2%
その他	8.8%	8.6%	8.8%	8.0%	8.2%	6.2%	0.0%	7.5%

